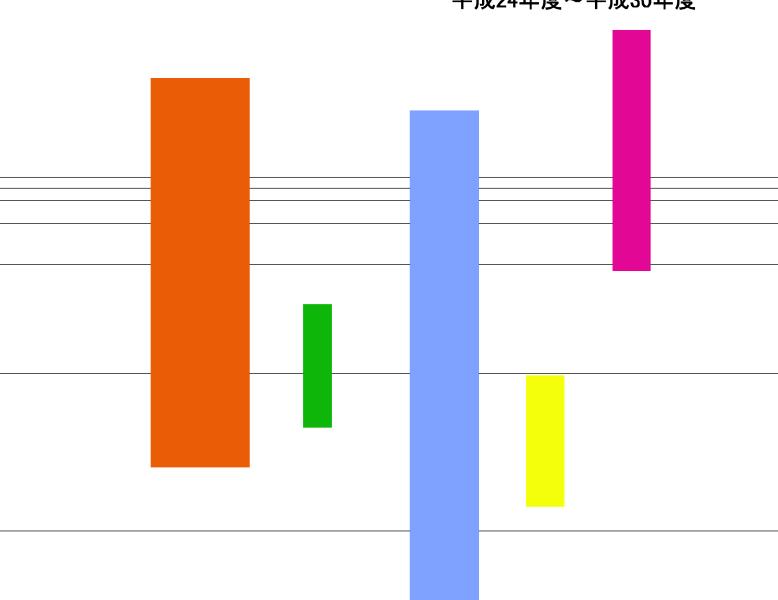
大和市学校教育基本計画

未来へのまなざし

平成24年度~平成30年度



大和市教育委員会

資

大和市学校教育基本計画(平成24~30年度) 第一章 計画の策定について 1. 計画策定の背景 2. 計画の位置づけ 第二章 計画全体の内容及び重点施策 1. 基 本 構 想(平成18~30年度)..... 2. 基 本 計 画(平成24~30年度)..... ① 現状と課題 ③ 重点施策16 第三章 基本目標の実現に向けた施策の方向 · 基本目標1 「夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます」......20 「創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます」.....25 · 基本目標2 「家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます」......28 基本目標3 「地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます」......30 · 基本目標4 料:「大和市の教育に関するアンケート結果」......33 資 大 和 市 学 校 教 育 基 本 計 画 ~ 実施計画編(平成24~26年度) ~ · 基本目標1 48 · 基本目標2 61 · 基本目標3 · 基本目標4 70 料:(教育部所管)実施事務事業一覧......73

第一章 計画の策定について





1. 計画策定の背景

大和市では、平成21年に市制施行50年という節目の年を迎え、同年7月に第8次総合計画が策定されました。そこでは、少子高齢化の急速な進展や経済情勢の悪化など、社会的不安が大きくなっていく中、市民の声に真摯に耳を傾け、多様化していく市民ニーズに応えるとともに、市民の暮らしを守り、支えるという基礎自治体としての責任を全うするため、「健康創造都市やまと」を将来都市像として掲げております。

教育界の動向も大きく変わり、約60年ぶりに教育基本法が改正されました。改正教育基本法では、教育の目的について「人格の完成」をめざすものと旧法の規定を受け継いでおりますが、「公共の精神」や「伝統の継承」などが新たに前文に位置づけられました。この法改正にともない学習指導要領も改訂され、小学校では平成23年度から全面実施されております。中学校での全面実施は、平成24年度からとなります。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災における辛い経験を通して、人々は生きる意味 を深く考え、互いに支え合うことの大切さを再認識することとなりました。

大和市教育委員会ではこのような状況を踏まえ、本市学校教育の基本的な理念である基本構想 のもと、時代の状況をより的確に捉えることをめざした大和市学校教育基本計画を策定しました。

子どもたちがこれからの時代を生きていくうえで、自立的に考え、互いに学び合い成長する力 をはぐくめるよう、教育委員会が一丸となって本計画を推進してまいります。



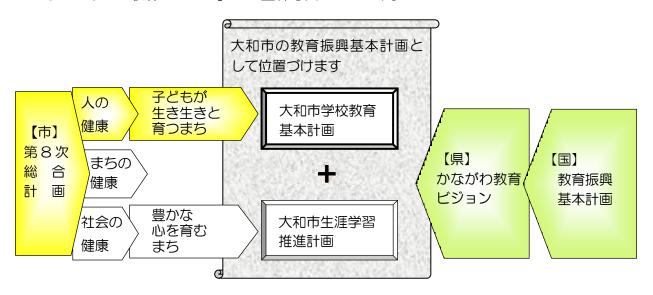
ウェルカムプランにより リニューアルされた学校図書館



電子黒板を活用した授業

2. 計画の位置づけ

- 「大和市生涯学習推進計画」とともに、教育基本法第17条で規定された地方公共団体が策定する教育振興基本計画を担うものです。
- 本計画は、大和市第8次総合計画の個別計画としても位置づけ、他の計画と整合を図りなが ら、施策を推進します。
- 計画の策定にあたっては、国が策定する教育振興基本計画を踏まえ、神奈川県が策定している「かながわ教育ビジョン」との整合も図っています。



3. 計画の構成

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層で構成しています。

- 基本構想:計画期間全体を通し、大和市の学校教育がめざす基本的な考え方を示しています。
- 基本計画:基本構想を具現化するための7年間の基本目標と施策の方向を示しています。
- 実施計画:基本目標を達成するための3~4年間の具体的な取り組みを示しています。

基本構想 1年延長 ★								
(前期)	基本計画	(後期)	基本	計 画	*2			
第1期	第2期	第3期実施計画		第4	期実施計	画		
実施計画	実施計画	(3年)	(4年)					
H18~20年度	H21 ~ 23年度	H24~26 年度		H27	7~30年	度		

- *1:計画全体の期間を1年延長し、第8次大和市総合計画の計画期間と整合を図ります。
- *2: 基本計画の期間は、総合計画との整合を図り7年間とします。なお、諸情勢に変化が生じた場合は、必要に応じ随時見直しを行います。

4. 進行管理と評価

- 基本目標ごとに設定する施策の方向に基づき、教育委員会が事業を実施します。
- 成果を計る目安となる指標(以下「成果指標」という。)を設け、計画の進行管理を行います。
 - ・ 基本目標ごとに成果指標を設定します。これにより、めざすべき状況が明らかになるため、 より効果的、より効率的な施策の推進が期待できます。
 - ・ 児童や生徒の育ちを、数値化した指標で評価することは適さない面もあることから、評価 にあたっては成果指標だけでなく、その他の状況説明を加え、総体的に行います。
- 毎年度、教育委員会の自己点検・評価報告書により計画の進捗状況を確認します。また、それにより事業を見直し、計画の達成をめざします。

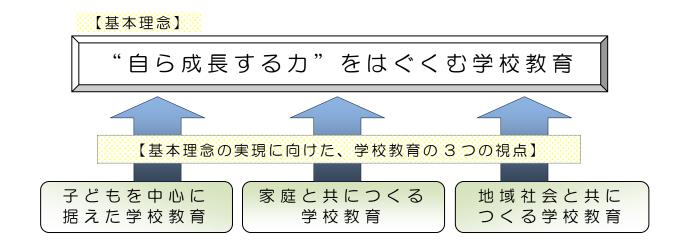
第二章 計画全体の内容及び重点施策



1. 基本構想(平成18~30年度)

本市学校教育の基本理念と、学校教育の3つの視点で基本構想を構成します。

学校・家庭・地域社会が一体となって、子どもたちの自ら成長する力をはぐくむ学校教育の実現をめざします。



① 基本理念 「自ら成長する力」をはぐくむ学校教育

多様な価値観が交じり合うこれからの時代を生きる子どもたちには、生きてはたらく知恵を身につけ、多様性を許容して様々な問題に、冷静に対応していく人間像が求められます。それは、 人々とのかかわりの中でよりよく生きようとする社会的実践力を備えた姿でもあります。

これらを支えるものは「自ら成長する力」であり、自ら成長する力は、自己実現に向かって生涯学び続ける力となります。

みずみずしい感性と豊かな心を基盤に、自ら成長する力をもって、これからの時代をたくましく生きる子どもを育てます。

② 3つの視点

ア) 子どもを中心に据えた学校教育

子どもにとって未来は、明るいもの、開かれているもの、夢あるものです。そして、すべて の子どもは、その内にすばらしい潜在能力と可能性を秘め、それを発揮する時と場を待ってい ます。子どもの内にある能力を引き出し、開花させることが教育の大切な役目といえます。

子どもは、かけがえのない存在として愛され尊重されることによって、安心と自信を得、の びのびと自己を発揮します。 一人一人の子どもをかけがえのない存在として尊重し、子どもの幸福を第一に考え、「子ど もを中心に据えた教育」を展開します。

イ) 家庭と共につくる学校教育

家庭は子どもの人間形成にとって重要な場といえます。家族の愛情を基盤として、基本的生活習慣、善悪の判断、思いやりなど、社会で生活していく上で大切な基本的資質を身につける場として、重要な役割を担ってきました。

しかし、近年、社会変化に伴って生活スタイルが変化したことなどから、生活習慣や食生活の乱れが指摘されています。さらに、規範意識の低下やいじめ、不登校、児童虐待、薬物乱用、 犯罪の低年齢化などの深刻な問題も生じています。

これらの問題の解決のためには、学校と家庭が共に本来の役割を自覚し責任を果たすとともに、互いに協力し補完し合って子どもの成長を支えていく必要があります。

子どもの健やかな成長という共通の願いのもとに、家庭の協力を得て、「家庭と共につくる 学校教育」を推進します。

ウ) 地域社会と共につくる学校教育

子どもは、家庭、学校、そして地域社会で育ちます。地域社会は、生きる知恵や社会性を自然に身につける場として重要な役割を担っています。また、思いやりや共に生きる心をはぐくむ場としても重要です。

新たな教育課題が山積しているなか、新しい学習環境を整え、子どもの成長を見守り支援するために、地域の人々の知恵と力が必要です。

学校は地域社会へ、地域社会は学校へ、それぞれの持てる力を提供し合い、子どもが健やかに育つ環境づくりに努め、「地域社会と共につくる学校教育」を推進します。

2. 基本計画(平成24~30年度)

学校教育基本計画の理念を実現するために、7年間の基本目標と施策の方向を示しています。

① 現状と課題

ア) 社会状況の変化

少子高齢化の進行、環境問題の顕在化、経済状況の悪化などの社会状況の変化により、これまで社会の成長を支えてきたさまざまな考え方は転換をせまられています。同時に、子どもたちの人間的な成長を支えるためには、今後どのような手立てが必要になるかという根本的な問題が提起されています。

国際化が進み、国境を越えた人やモノの交流や移動が活発になり、学校においても外国につながりのある子どもたちが増え、多様な文化や価値観を認め合うことが必要となっています。また、情報化の進展により、インターネットや携帯電話によるネット犯罪や、直接的な人と人とのかかわりの減少による新たな問題が生じており、幼い頃からの情報教育の必要性が高まっています。

そして、産業・就業構造の変容によるフリーターなどの非正規雇用の増加や、若年層の無業者(いわゆるニート)の増加が社会問題化し、若者の勤労観・職業観の形成が求められています。一方、平成23年3月の東日本大震災後は、失敗に強い再チャレンジできる心の育成の重要性がうたわれるとともに、地域の核となる学校の役割の見直しが進められています。

イ) 教育をめぐる現状

このような社会状況のなか、国においては、教育関連三法の改正、新学習指導要領の公示、 教育振興基本計画の策定などがなされ、教育界の動向は大きく変わりました。

約60年ぶりに改正された教育基本法では、教育の目的を実現するために、「公共の精神」 や「伝統と文化の尊重」などの今日重要と考えられる事柄を教育の目標として規定しています。 加えて、教育の実施に関する基本として「家庭教育」、教育行政として「教育振興基本計画」 についても規定しています。

また、教育に関する各種調査結果 (PISA*1、TIMSS*2) によると、我が国の学力は「読解力を中心に改善傾向にあるものの、世界トップレベルとは言えない」「学習意欲や学習習慣に課題がある」「テレビやビデオを見る時間が長く、家の手伝いをする時間が短い」「科

【用語説明】

- *1 PISA: 経済協力開発機構(OECD)による国際的な生徒の学習到達度調査のこと。OECD 加盟国の多くで義務教育修 了段階にある 15 歳の生徒を対象に、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能力を調査するもの。
- *2 TIMSS: 国際教育到達度評価学会(IEA)が行う「国際数学・理科教育動向調査」の略称。学校教育で得た知識や技能の 習得度を調査するもの。

学への興味・関心が低い」「希望の職業に就くために良い成績をとると思う生徒が少ない」などの課題が明らかになりました。

平成20年3月には、「『生きる力』をはぐくむ」という理念を継承し、理数教育や言語活動 の充実を明記した新学習指導要領が告示され、小学校では平成23年度から、中学校では平成 24年度から新しい教育課程による学校教育が展開されています。

一方、神奈川県教育委員会は、明日の神奈川を担う人づくりを進めるための総合的な 指針としてかながわ教育ビジョンを策定しました。

本ビジョンは、基本理念や 教育目標(めざすべき人間力 像)を整理し、図るべき基本 方針と取り組みの方向を示し ています。

「かながわ**教育**ビジョン 心ふれあうしなやかな人づくり」 (平成19年8月)

- 基本理念 未来を拓く・創る・生きる 人間力あふれる かながわの人づくり
- 教育目標 (めざすべき人間力像)
 - [思いやる力]

他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる

[たくましく生きる力]

自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる

[社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる

ウ)大和市の教育課題

大和市教育委員会では、平成22年9月、市内の児童・生徒、教員、保護者を対象に、「大和市の教育に関するアンケート」を実施しました。平成16年に実施したアンケートと比較することで、本市が現在抱える教育課題が見えてきています。

i. 夢や目標はもてている。しかし明確なものがもてていない子どもたち

設問「将来に夢や目標がありますか」に対して、小学生で9割弱、中学生で7割の子ど もたちが「はっきりとある」「少しある」と回答しています。中学生になると夢や希望が

もてる子どもが減ってしまう傾向にあり、はっき りとした目標をもっている中学生は3割程度で す。

また、「あなたは、何のために勉強していますか」という問いに対しては、「テストでよい点数をとるとうれしいから」、中学生では「受験に必要だから」という回答が圧倒的に多く、「世の中で役に立つ人になりたいから」や「自分が就きた



※児童·生徒回答

い仕事に就くのに必要だから」という回答は低くなっています。

学習においても近い目標に向けては、がんばる 子どもたちですが、将来を見据えて、目的をもっ て勉強しているわけではないことがうかがえま す。また、学ぶ楽しさを実感できていないことも うかがえます。

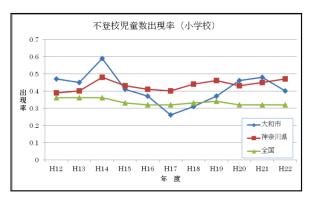
あなたは何のために勉強していますか。(3つ) 児童・生徒	小学校 割合(%)	1000
テストで良い点数をとるとうれしいから	57.0	56.7
受験に必要だから	26.0	64.7
自分がつきたい仕事につくのに必要だから	38.1	34.8
友だちに負けたくないから	24.4	18.9
世の中で役に立つ人になりたいから	25.2	14.4
勉強しないと家の人におこられるから	19.2	22.9
勉強することが楽しいから	11.5	6.5
みんながやっているから	8.8	9.0
お金持ちになりたいから	9.3	7.5
あてはまるものがない	5.8	6.0

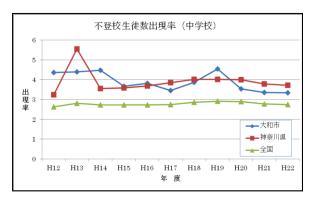
※児童·生徒回答

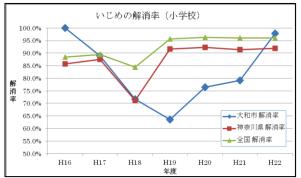
今後、子どもたちが、目的をもって勉強できるように、さらには、明確な夢がもてるようにはたらきかけをしていくことが、必要です。

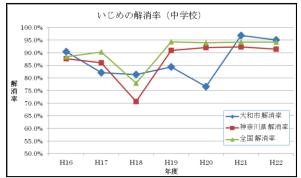
また、本市における不登校やいじめの出現率は、全体として減少傾向にあるものの、全国の平均より高い値となっています。これまで、不登校対策として、不登校支援員や学校教育相談員、スクールアシスタントの配置及び、スクールソーシャルワーカー(SSW)による支援などを、いじめ対策として、フォーラムの開催やリーフレットの配布などを行ったことにより、未然防止・問題解消につながっております。

今後もより一層の、未然防止・早期対応・問題解決への取り組みが重要です。









ii. 中核となる教員が少ない学校

大和市小中学校教職員の年齢構成をみると、平成16年度調査では8割が40代、50代でしたが、平成22年度調査では学校運営の中核となる40代の小学校教員は1割に満たず、20代、30代の若手教員が4割に増えています。今後も、数年の間は、20代、30代の若手教員が占める割合が増えていくことが予想されています。





子どもたちの生きる力をはぐくむためには、子どもたちのさまざまな育ちを背景とした 教育的ニーズに対して適切な支援・指導を行い、家庭や地域からのニーズに適切に応えて いく必要があります。教師一人一人が授業力向上を図ることに加え、教職員が、学校・家 庭・地域をつなげる力やチームとなって働く組織力をつけていくことが早急に求められて います。

iii.「地域の活動」に参加することが少ない子どもたち

地域の活動に参加したことがある子どもの割合は、小学生が66.4%に対し、中学生になると38.5%と、30ポイントほど減少しています。成長とともに、地域とのつながりが減っていく傾向があることがみてとれます。

地域は、子どもたちが生きる知恵や社会性を

基本目標7 温かいつながりをはぐくむ地域社会

児童生徒アンケート
「今の学年でボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか」

地域の活動に参加したことがある と回答

小学生 66.4%
中学生 38.5%

地域とのつながりの低下

自然に身につける場として、また、思いやりや共に生きる心をはぐくむ場です。そのため、 地域とのつながりをいかにして深めていくかが、重要な課題といえます。平成23年3月 の東日本大震災後は、地域の役割がより一層高まっています。

熱心な取り組みがなされているいくつかの地域活動を、多くの地域に広げていくことが 求められています。

iv.「礼儀や社会のルール・マナーを身につけさせる」ことは大切。 しかし、「自ら学び、自ら考える力」「思いやり」も大切

学校教育、家庭教育、地域の活動のいずれの場面においても「あいさつや社会のルール」 を身につけさせる取り組みが大切だと思う、というポイントが上がっています。学校・家 庭・地域の連携した取り組みが求められているといえます。

	りに満			
学校教育で大切だと思うことは何です か(4つ) 保護者	小学校 前回	小学校 今回	中学校 前回	中学校
礼儀や社会のルール・マナーを身につけさせること	53.9	61.9	52.4	60.6
自ら学び自ら考える力を身につけさせ ること	59.7	55.4	63.2	53.7
基礎的、基本的な知識や技能を身につ けさせること	55.4	52.8	55.2	51.4
円滑な人間関係を柔くことかできるよう にさせること	56.8	52.1	61.9	51.7
思いやりの心を育むこと	44.6	50.2	37.1	42.2
様々な体験を積ませること	39.5	36.5	39.0	34.3
善悪の判断を身につけさせること	23.1	27.4	18.1	28.9
基本的な生活習慣を身につけさせる	14.7	20.2	16.2	23.8

※保護者回答

					1 110 11
子どもを育てる上で 切だと思うこと(3つ			AND SHOW SHOWS		The second second
人を思いやる心を	育てること	82.7	79.2	83.5	75.2
あいさつや社会の	ルールを教える	71.9	76.2	68.3	73.0
善悪の判断を身に	こつけさせること	73.1	\$ 68.2	76.5	68.8
しつけをすること		34.6	34.5	39.4	36.0
知識を身につけさ	きせること	6.9	13.0	11.4	11.3
学力をつけさせる	こと	3.4	5.9	4.4	7.7
自然体験をさせる	らこと	12.0	7.1	5.1	5.1

※保護者回答

一方、学校教育における自ら学び自ら考える 力の習得については、決してポイントが高いと はいえません。この力の習得は、本計画の理念 にもある「自ら成長する力」、そして学習指導 要領の「生きる力」にも通じるものです。今ま で以上に、意識した取り組みが必要といえます。

また、「人を思いやる心」の重要性もうかが えます。感性や情緒のはぐくみが課題です。 ※保護者回答

基本目標4 創意と	魅力	こ満ちが	と学校	
あなたが、学校教育で大切だと 思うことは何ですか 教員	小学校 前回	小学校 今回	中学校 前回	中学校 今回
基礎的、基本的な知識や技能を 身につけさせること	84.5	75.3	74.4	54.8
礼儀や社会のルール・マナーを 身につけさせること	47.9	5 2.4	53.7	70.2
思いやりの心を育むこと	47.9	51.2	51.2	51.0
円滑な人間関係を築くことができ るようにさせること	54.9	52.9	31.7	43.3
自ら学び自ら考える力を身につ けさせること	49.3	47.1	34.1	36.5
善悪の判断を身につけさせること	26.1	31.2	26.8	34.6
基本的な生活習慣を身につけさせること	23.2	27.6	41.5	39.4

※教員回答

基本目標7 温かいつながり	2171	(Q)	些蚁社	云
地域の活動として今後特に取り組まなければならないことは何だと思いますか(1つ) 保護者	小学校 前回	小学校 今回	中学校 前回	中学校
困った時に助け合える関係づくり の取り組み	35.9	37.2	34.6	36.9
社会的ルールを身につけさせる取 り組み	13.7	1 9.0	16.5	23.6
地域の安全を守る取り組み	26.9	21.8	20.3	15.5
奉仕活動やボランティア活動の取 り組み	11.0	9.9	17.1	16.5
自然体験・生活体験を豊かにする 取り組み	8.3	11.2	8.6	6.1
その他	1.9	0.9	0.6	1.3

※保護者回答

今の小中学生に特に身につけてほしい	小学校	子ども中学校
と思うことは何ですか。(3つ) 保護者	割合%	割合%
思いやり・協調性	69.8	74.0
責任感	35.3	36.4
基本的な生活習慣	33.7	34.7
忍耐強さ	35.9	29.5
自主•自立性	25.8	27.3
生命尊重·自然愛護	23.8	24.7
意欲	22.2	27.3

② 基本目標と施策の方向

ア) 基本目標を設定するための観点

日々、学校で学ぶ子どもたちが健やかに成長していくためには、学びの主体である「子ども」、 子どもたちの学びを支える場としての「学校」、そして、子どもたちを支える人のつながりで ある「家庭・地域」のかかわり合いが基盤になります。

イ) 基本目標の設定について

今日の社会状況や本市の教育課題、教育フォーラムでの意見などを踏まえ、これから求められる「子ども」、「学校」、「家庭・地域」のイメージをまとめると次のようになります。

子ども

- 夢や目標をもっている
- ・失敗に強く、再チャレンジできる心をもっている
- 憧れる大人がいる
- ・自己有用感・自己肯定感がもてている
- ・たくましく生きぬく力 (確かな学力、豊かな人間性、 健康・体力) をもっている。
- ・学力の3要素が身についている
- ・共感する心、感動する心をもっている

家 庭

- ・子どもにとって 心理的な拠り 所になってい る
- ・家庭教育の大切 さを学校と共 有している

学 校

- ・「安全と安心」、「創造性」を保持している
- ・教職員が実践的指導力を身につけている
- 教職員が、学校を家庭や地域とつなげる力をもっている
- ・教職員個々の成長に加え、チームや学校組織としての力が発揮されている
- 家庭や地域と、子育てという基軸で密な連携を行うことができている

地 域

- ・子どもたちの学 びを支援する 場となってい る
- ・地域と学校が、 子育てという基 軸で密な連携を 行うことができ ている

具体的な基本目標については、設定のための観点や求められるイメージを考慮することで、 次に示す4つの目標を掲げ、それぞれに施策の方向を示しました。

ウ) 基本目標

「『自ら成長する力』をはぐくむ学校教育」を実現するために、平成24年度から30年度までの7年間の基本目標を示しています。

基本目標

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

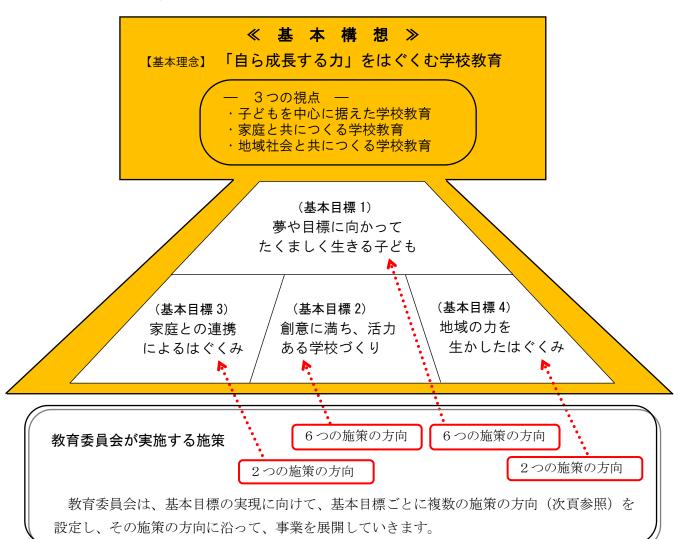
基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

< 基本理念・視点と基本目標の関係図 >

"「自ら成長する力」をはぐくむ学校教育"という基本理念のもと、めざす子ども像に向けて、学校、家庭、地域という3つの視点からアプローチする計画としております。



工)施策の方向

「『自ら成長する力』をはぐくむ学校教育」を実現するために、平成24年度から30年度までの7年間の施策の方向を体系的に示しています。

施策の方向

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

施策の方向1-1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

施策の方向1-2 "確かな学力"を身につける教育を進めます

施策の方向1-3 体験活動を充実します

施策の方向1-4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります

施策の方向1-5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります

施策の方向1-6 健康・安全教育を充実します

基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

施策の方向2-1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します

施策の方向2-2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します

施策の方向2-3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます

施策の方向2-4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します

施策の方向2-5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります

施策の方向2-6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

施策の方向3-1 学校と保護者との連携を深めます

施策の方向3-2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

施策の方向4-1 地域社会と協働した学校教育を推進します

施策の方向4-2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます

③重点施策

基本理念の実現をめざし、今後推進していく「4つの基本目標」、「16の施策の方向」の中で、より積極的に力点をおく施策を「重点施策」として位置づけます。

これら重点施策は、教育委員会が教育行政を推進していく上で、特に高い成果目標を掲げ、施策を推進していきます。

A

(1) 不登校やいじめ問題の解消

本市では、一人一人の児童・生徒を大切にした教育の実践に向けてこれまでも取り 組んできました。子どもたちが、夢や目標をもち、たくましく生きていけるよう、引 き続き力を入れて取り組みます。

① 不登校の未然防止・早期対応・登校支援に努めます

不登校の解消に向けて、各学校では児童・生徒が欠席した際、「不登校」の可能 性も視野に入れ、積極的な対応や支援に努める必要があります。

大和市の不登校児童・生徒の出現率は、県下平均を下回りますが、全国平均と 比べると高い値となっているため、全国平均を下回ることをめざします。

*不登校:何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にあること(病気や経済的な理由によるものは除く)。

② いじめの未然防止・早期発見・早期対応・解決支援に努めます

「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を児童・生徒に徹底することに、各学校は、学校教育全体を通して取り組まなければいけません。教職員は、日頃からより良い人間関係の構築に向けていじめの未然防止に努めるとともに、児童・生徒が発するいじめの信号を見逃さず、早期発見・早期対応を進め、関係者の連携により迅速な解決を図る必要があります。

学校において、このような体制を確立するため、いじめ問題の解消の状況(解 消率)を指標として設定し、目標値として 100%をめざします。

*いじめ:当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの

(2) 読書活動の推進

子どもにとって読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠かせないものです。

しかし、近年、子どもの「読書離れ」や「読解力の低下」が課題とされています。また、大量の情報があふれる現代社会においては、情報化の進展により利便性が高まる反面、断片的な情報を受け取るだけの姿勢になったり、内面からの感動を味わう機会が減少したりしています。

読書を通じて養われる想像力や思考力は、豊かな感性をはぐくみ、多くの知識 を理解したり、他者及び多様な文化を理解したりする上での基礎となります。ま た、学ぶ楽しさや知る喜びを経験することで、知的探求心や真理を求める態度が 培われ、主体的に社会の形成に参画していくための契機にもなります。

本市では、子どもたちの豊かな感性や情緒をはぐくみ、学力の下支えにもなる 読書活動に、これまでも力を入れて取り組んできました。例えば、ウェルカムプ ランとして小学校図書館の改修を平成23年度に完了し、また、各小・中学校に 学校図書館司書を配置しました。各学校では、「学校図書館教育全体計画」を作成 し、教師、司書、保護者、地域ボランティアなどが有機的に結びつきながら、読 書活動を推進しています。

今後も、小・中学校9年間を見通した、読書の量、読書活動の質の向上をめざ し、中学校においても学校図書館を整備し、ハード・ソフト両面から事業の充実 を図ります。

3. 実施計画(平成24~26年度-平成27~30年度)

4つの基本目標を達成するための平成24年度から同26年度までの具体的な取り組みを、第3期実施計画として示しています。

平成27年度から同30年度の具体的な取り組み示す第4期実施計画は、第3期実施計画が2年経過した時点での評価を踏まえて策定します。

なお、学校教育基本計画第3期実施計画は、大和市第8次総合計画を斟酌して策定しています。

第三章 基本目標の実現に向けた施策の方向



基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

子どもたちが、これからの社会の中で、心豊かにたくましく生きる人間に育っていくことができるよう、一人一人を大切にする教育を進めます。

それとともに、生きてはたらく知恵を身につけ、他者と相互理解する中で、さまざまな問題に対応していく力を育成するため、"確かな学力*1"を身につける取り組みを推進します。

~現状と課題~

- ・ 本市のアンケート調査*2によると、「将来の夢や目標を明確にもっている」「将来を見据えて目的をもって勉強している」の回答率は高くありません。自らをみつめ、生き方を考えることができる子どもが育つよう、一人一人が輝くことができる教育活動が重要です。
- ・ 約8割の児童・生徒が「学校の勉強はわかる」と答えているものの、学習の様子は受け身的です。"確かな学力"に向け、一人一人の学びを大切にしたきめ細やかな学習指導が必要です。
- ・ 児童・生徒の「規範意識の低さ」や「人間関係形成能力の弱さ」を課題と感じているという回答率が高いことから、豊かな人間関係を築く力や社会の中で共に生きていく心をはぐくむことがこれから一層重要になります。学校・家庭・地域が連携して取り組むべき課題といえます。
- ・ 子どもたちの心身の調和的発達をめざし、豊かな感性のはぐくみ、スポーツに親しむ習慣や意 欲の向上、食育の充実などに取り組む必要があります。
- ・ 夢や目標を語るには、基本的な生活習慣の確立が前提となります。テレビやゲームなど、子どもにとって強く惹きつけられるものが溢れているため、自己を管理する力が求められます。
- ・ 震災後、困難に直面しても諦めることなく、状況を的確に捉えて自ら考え行動する力の育成が 一層求められています。

施策の方向1−1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

自分の力を発揮し、他者に認められた経験によって、自己肯定感は高まり、夢や目標に向かうことができます。また、他者の個性を尊重し合い、互いを認め合うことにより、集団の一員である意識もはぐくまれます。一人一人を大切にした取り組みに努めます。

不登校で苦しむ児童・生徒に対しては、登校支援を始めとする早期対応を、いじめに苦しむ児童・生徒に対しては、心のケアなどを関係機関と連携する中で推進するとともに、学校全体でその未然防止に取り組みます。

障がいがある児童・生徒に対しては、個別の支援計画の作成や特別支援教育へルパー*3を配置することで、ハード、ソフト両面でのバリアフリーを図ります。児童・生徒が、障がいの有無や立場の違いを超えて共に理解し合い、学び合える環境を目指します。



全国大会に出場する 中学校野球部



学校相談室

施策の方向1-2 "確かな学力"を身につける教育を進めます

学習内容に即した教材の導入を図るとともに、学習環境の整備を進めます。また、「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を体感できる学習を通し、学習意欲の向上と学習習慣の定着をめざします。

また、情報モラル教育や環境教育など、変化する現代社会において不可欠な「時代に即した教育」を、様々な教科等を通して進めます。



ICT を活用する授業

併せて、学習時間の弾力化*4や学級を超えた学習集団の弾力的編制など、

実情に応じた効果的学習を進めていきます。また、授業の構成や進め方を工夫することに加え、体験活動、問題解決型学習などの充実により、"生きる力*5"をはぐくむ豊かな学びを進めます。

施策の方向1-3 体験活動を充実します

異年齢の人との交流、スポーツ活動、自然体験活動、集団宿泊体験、ボランティア活動など、社会活動や体験活動の充実を図ります。その結果、児童・生徒の自己有用感をはぐくみ、人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成します。

また、生き方を考える教育を通して、児童・生徒の自己実現を促します。特に中学校を中心とした職場体験活動の充実を図ります。



職場体験学習

施策の方向1-4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります

豊かな情操や自他の生命尊重の精神、規範意識、公共の精神などをは ぐくむために、道徳の時間を要として学校教育活動全体で、子どもの発 達に応じ、実践力を伴う道徳教育の充実を図ります。

児童・生徒自身が一人の人間として大切にされているという実感をもつことで、自己や他者を尊重しようとし、主体的に行動できる人権感覚を備えた児童・生徒の育成をめざします。



福祉体験学習 「車いすバスケット」

施策の方向1-5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります

感性や情緒を豊かなものにし、創造力をはぐくむ読書活動や文化活動は、子どもの健やかな成長にとって大変重要なものです。また、伝統文化などにふれる活動を通して、国際社会で生きていく上で欠かせない異文化尊重などの国際感覚をはぐくみます。



水墨画体験学習

施策の方向1-6 健康・安全教育を充実します

子どもが自らの健康をはぐくみ、災害時などにも安全を確保することができるように、基礎的な素養を育成する健康·安全教育を充実させるとともに、喫煙・飲酒・薬物乱用防止、交通安全などに関する教育を推進します。また、望ましい生活習慣や食習慣を身につけさせるため、栄養教諭を中核として食育の推進を図り、学校・家庭・地域が連携して取り組むことをめざします。



栄養教諭による授業 「食育カルタ」

【用語説明】

- *1 確かな学力: 基礎的・基本的な「知識や技能」に加えて、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力など」を含めた幅広い学力。
- *2本市のアンケート調査:児童・生徒、保護者、教職員を対象とし、平成22年9月に実施。
- *3 特別支援教育ヘルパー: 特別な教育的ニーズのある児童・生徒に対して、一人一人のニーズに応じ、個別的な学習や社会性の育成の支援を行う。
- *4 学習時間の弾力化: 小学校45分、中学校50分の標準的な授業時間の設定について、学習指導要領総則では、ノーチャイム制、ブロック制(2時間をまとめ1つのブロックとする。)、モジュール制(15分を単位時間として組み合わせる)など、各学校に弾力的な運用を求めている。
- *5 生きる力:「確かな学力」、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」など、子どもたち一人一人が自ら個性を発揮し、困難な場面に立ち向かい、未来を切り拓いていく力。

○ 基本目標1の実現に向けた、成果を計る主な指標

(重):重点施策

指	標	の	内	容	現 (平 _F	状 値 成 22 年)		引目標値 式 26 年)	-	冬目標値 成 30 年)
● 施策の方	向 1-1 個	々のよさや可	能性を伸ばす	^ト 教育を進めま	t					
不登校児童	・生徒の割・	合		1	小)	0.40%	小)	0.33%	小)	0.25%
		ー ´全児童・生徒数	数×100	•	中)	3.34%	中)	2.80%	中)	2.22%

【設定理由】一人一人の児童・生徒を大切にした教育の取り組みとして、不登校児童・生徒への対応が図られていることを示す指標として設定します。不登校になる原因は、様々な要因がありますが、まずは学校に起因する事例の出現をおさえることから取り組み、平成30年度までに、出現率が全国平均を下回ることをめざします。

※不登校児童·生徒出現率(平成22年度文部科学省調査) 全国平均:(児童)0.32%、(生徒)2.74%

(参考) 第8次総合計画指標 3.0%[H25、中学生]

いじめ問題解消の状況(解消率)

※いじめ事例解消件数/いじめ認知件数×100

 小)
 97.9%
 小)
 100.0%
 小)
 100.0%

 中)
 95.1%
 中)
 100.0%
 中)
 100.0%

【設定理由】一人一人の児童・生徒を大切にした教育の取り組みとして、どの子にも起こりうるいじめ問題への対応が図られていることを示す指標として設定します。いじめ問題の解消率(「解消している」「一定の解消関係が図られたが継続支援中」)が、小学校、中学校ともに100%となることを目標値としてめざします。

※いじめ問題の解消率(平成22年度文部科学省調査) 全国平均:(児童)96.0%、(生徒)94.2%

● 施策の方向 1-2 "確かな学力"を身につける教育を進めます

学校の勉強がわかると答えた児童・生徒の割合 ※該当者数/調査対象児童・生徒数×100

小)	83.7%	小)	90.0%	小)	95.0%	
中)	75.6%	中)	81.0%	中)	85.0%	

【設定理由】学校の学習環境が整備され、児童・生徒が、学ぶ意欲をもち、学習内容を習得していることを示す指標として設定します。中学校で前期計画期間の6年間に10%増の傾向が見られた(本市調査)ことから、目標値として、平成30年度までに、小学校、中学校ともに10%程度の増をめざします。

※数値は、「わかる」・「どちらかといえばわかる」と回答した児童・生徒の割合

● 施策の方向 1-3 体験活動を充実します

将来の夢や目標をもっていると答えた児童・生徒の割合 ※該当児童・生徒数/抽出児童・生徒数×100

小)	88.2%	小)	89.0%	小)	89.0%
中)	69.8%	中)	71.0%	中)	72.0%

【設定理由】職場体験活動も含めた「生き方を考える教育」は、人の生き方に憧れたり、自己の有用感を感じたりする機会となり、将来の夢や目標を考えることにつながります。規範意識や豊かな人間性の育成、論理的思考力の形成などに効果的な体験活動が、全ての教育活動において、意図的・計画的かつ組織的に推進されていることを示す指標として設定します。平成30年度までに、小学校5年生及び中学校2年生を対象に、小学校では現状値の継続を、中学校では全国平均を、目標値としてめざします。

※将来の夢や目標をもっていると答えた児童・生徒の割合 (平成22年度文部科学省調査) 全国平均: (小学校6年生)86.8%、 (中学校3年生)71.6%

(参考) 第8次総合計画指標 78.0% [H25、小中学生]

指	標	Ø	内	容	現 (平 _F	状 値 成 22 年)		引目標値 或 26 年)		8目標値 対 30 年)
● 施策の方	向 1-4 教	育活動全体では	道徳教育・ノ	人権教育の推進	を図り	ます				
自分からあり	ハさつをす	ると答えた児	見童·生徒の	割合	小)	88.9%	小)	92.0%	小)	95.0%
		查対象児童·生徒			中)	84.1%	中)	90.0%	中)	95.0%

【設定理由】あいさつや言葉遣いへの気遣いは、互いの存在を肯定し合い、人間関係や社会生活を円滑にする第 1 歩であ ることから、道徳的実践力がはぐくまれていることを示す指標として設定します。あいさつの習慣は、学校だけで なく、家庭や地域と連携した中ではぐくまれることを考慮し、目標値を設定します。

● 施策の方向 1-5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります

1ヶ月間の平均読書冊数

中) (5冊)

小) (12冊) 小) 中)

13 册

5.5 册

小)

14 册 中) 6 册

【設定理由】本への親しみを考えた場合、量と質の双方の向上を計る指標が求められますが、ここでは、児童・生徒が本 に親しんでいる量を計る指標として設定します。現状値を維持しつつ、すべての学校で全国平均を上回ることをめ ざします。なお、対象となる書物は全国学校図書館協議会読書調査に準じます。

※1ヶ月間の平均読書冊数(平成22年度全国学校図書館協議会読書調査 小学生は4~6年生対象) 全国平均: (児童) 10 冊、(生徒) 4.2 冊

<現状値は平成23年調査>

● 施策の方向 1-6 健康・安全教育を充実します

※1ヶ月に読んだ本の冊数/調査対象児童・生徒数

児童·生徒学校事故発生率

※日本スポーツ振興センターへの新規申請件数÷児童・生徒数 ×100

小)	4.8%	小)	4.0%	小)	4.0%	
中)	10.2%	中)	9.4%	中)	9.4%	

【設定理由】教職員及び児童・生徒が学校における事故の発生状況・危険性を認識し、児童・生徒が安全な学校生活を過 ごしている成果を示す指標として設定します。学校事故防止のための啓発活動を進め、平成22年度現状値を平成 26年度まで毎年0.2%ずつ減らし、それ以降は、中間目標値を維持していくことをめざします。

※学校事故発生率(平成22年度日本スポーツ振興センター調査) 全国平均:(小学校)6.2%、(中学校)11.3%

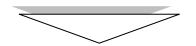
基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

子どもの生きる力をはぐくむために、創意ある教育課程*1 の編成と、地域の風が行き交う信頼される学校づくりに努めます。

教職員は、子どもたちの「自ら成長する力」をはぐくむために、自らの職責の重要性を認識し、 自己研鑽に努めることで、教職員としての資質向上をめざします。

~現状と課題~

- ・ 新学習指導要領の趣旨および改善事項を踏まえ、各学校が、創意工夫を生かした教育課程の編成・推進に努める必要があります。
- ・ 地域に信頼される学校は、そのつながりが子どもたちのはぐくみにつながるため、開かれた学校づくりに努めることが必要です。
- ・ 本市では小・中学校の耐震化は終了しましたが、施設の老朽化対策及び子どもたちが安全で安 心して学べる教育環境整備を計画的に進めていかなければなりません。また、災害や事件・事 故から子どもたちを守る取り組みも、家庭・地域などと連携を図りながら、一層推進すること が求められます。
- ・ 団塊世代の教員の大量退職に伴い、経験の浅い教員が増加の傾向にあります。その中で、教職員は学校を家庭や地域とつなげる役を担います。実践的指導力や学校組織としての教育力の強化は急務であり、総合的に捉えた対応策が必要です。



施策の方向2-1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します

各学校における教育課程は、学習指導要領に従い、児童・生徒の発達 段階や地域の特性を踏まえながら、教育目標、教育内容、指導組織、指 導計画の総体として編成されます。児童・生徒の生きる力がはぐくまれ るよう、各学校の創意ある教育課程の編成を支援します。



地域素材をいかした環境学習

施策の方向2-2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します

児童・生徒の実態や地域の様子を踏まえ、保護者や地域住民と連携した特色ある学校運営をめざします。また、保護者や地域への積極的な情報の発信や学校評議員制度*2の活用など、学校·家庭·地域と関わりを深め、地域の中で信頼される学校づくりを進めます。



学校評議員会

施策の方向2-3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます

安全と安心に守られた学校生活をめざし、防犯体制の整備とともに、 家庭・地域と協力して登下校時などの安全確保に努めます。また、大規 模災害時に備え、学校の防災計画の見直しを推進します。

学校給食では、安全で、栄養バランスのよい給食を提供します。



米飯給食

施策の方向2-4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します

安全・安心な学校環境をめざし、老朽化した学校施設の改善を計画 的に進めるとともに、児童・生徒が主体的に学べる教室環境づくりに 努めます。また、学校規模の適正化に努めます。



光丘中学校新校舎

施策の方向2-5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります

人格的資質・課題解決力・授業力など、教職員の資質・能力の向上や 学校の教育力を高める研修の充実を図ります。また、校内研修としてO JTの活用を図るなど、"学びつづける教職員"をめざし、はたらきかけ ます。



初任者宿泊研修

施策の方向2-6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます

地域の方々及びスクールアシスタントなどの非常勤職員によるサポート、 校務用PCの一人1台の整備、校務・組織の見直しなどを進め、教職員が子 どもと向き合う時間の確保に努めます。



ICT 活用による 校務の効率化

【用語説明】

- *1 創意ある教育課程:教育課程とは学校教育の目的や目標を達成するために、学校が目的的、組織的、計画的に実施する教育内容の総体。創意ある教育課程とは、重点となる教育活動を柱として、その他の教育活動の相互関連が図られることであり、児童・生徒の主体的な活動を生み出すと共に、児童・生徒の生きる力をはぐくむ活力ある学校づくりの基盤になる。
- *2 学校評議員制度: 各学校が保護者や地域住民の意向を把握し、反映するための制度で、学校評議員は、校長の求めに応じ、学校運営に関し意見を述べることができる。

指	標	Ø	内	容	現 状 値 (平成 22 年)	中間目標値 (平成 26 年)	最終目標値 (平成 30 年)
● 施策の方	向 2-1 創	意ある教育課	程の編成に向	けて支援しま	t		
創意ある教育	育課程を編	成している学	单校数	28 校	28 校	28 校	

【設定理由】児童・生徒の発達段階や地域の特性を踏まえ、各学校が教育目標・教育内容・指導計画等の総体である教育 課程を、創意をもって編成していることを示す指標として設定します。重点となる教育活動を柱として、その他の 教育活動が相互に関づけられている教育課程が全学校で編成されていることを、目標値とします。

● 施策の方向 2-2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します

学校評議員の来校日数

※各学校の来校日数の合計/学校数

5.4 日 6.5 日

【設定理由】学校は、地域と連携した教育活動を行うため、学校評議員よりご意見をいただいています。地域に開かれた学校づくりが推進され、保護者や地域住民の意向を把握した学校運営が行われていることを示す指標として設定します。全体会(2回程度)のほか、個別でも来校いただくことを想定し、平成30年度の目標値を設定します。

● 施策の方向 2-3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます

応急手当普及員数

63 人

90人

112人

8 日

【設定理由】救命法を指導するために必要な技能と知識を有する応急手当普及員が、学校内で適切な救命法を他の教職員 へ指導することで、児童・生徒の緊急時の安全性が向上することから指標として設定します。平成30年度までに 各校に4人程度資格者がいることを目標値として設定します。

● 施策の方向 2-4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します

修繕必要施設の改善割合

※補修処理件数/全補修要望数×100

86.0%

90.0%

90.0%

【設定理由】施設などが適切に維持管理されている、良好な環境の中で児童・生徒が学習していることを示す指標として 設定します。施設などが老朽化していることから、全補修要望のうち計画的改修時対応分が 10.0%程度あること、 補修要望増が見込まれることから、90.0%を目標値として設定します。

● 施策の方向 2-5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります

校内研究に際し、学校が指導主事派遣要請をした件数

42 回

52 回

64 回

【設定理由】校内研究は、教職員の資質向上に大きく寄与することから、教職員の人材育成がより充実したものとして行われていることを示す指標として設定します。目標値として、学校で開催される研究会のうち、研究委託校(8校)は年3回、その他の学校は年2回、指導主事の派遣要請が行われることをめざします。

● 施策の方向 2-6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます

教職員の健康診断・人間ドック受診率

※受診教職員数/全教職員数×100

95.9%

98.0%

100.0%

【設定理由】教職員が児童・生徒に向き合うためには、教職員が自身の健康状態を把握し、疾病の予防と早期発見に努めることが大切であることから、健康診断または人間ドックを受診した教職員の受診率を指標として設定します。目標値として、平成22年度の受診率95.9%から平成30年度には100%をめざします。

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

家庭は、子どもにとって、日々の暮らしの中で心とからだを健やかにはぐくむ重要な場であるとともに、安心できる場所です。

学校教育において、学校・家庭間の連携を一層進めることで、基本的生活習慣や、人への信頼 や人とかかわる力の基礎のはぐくみに努めます。

~現状と課題~

- ・ 教育基本法では、家庭教育について、「父母その他の保護者は、(中略)生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努める」と規定されています。しかし、社会環境の変化により、地域社会における人間関係が希薄化し、親が身近な人から子育ての仕方を学ぶ機会が減るなど、親や家庭を取り巻く環境が大きく変化していることから、家庭教育力を向上させるための環境づくりに努める必要があります。また、家庭が子どもの心の拠り所となるよう、家庭を支える環境づくりも重要です。
- ・ 本市には、20 カ国にわたる外国人または外国にルーツをもつ子どもがおり、言葉や文化の違いによる行き違いも少なくありません。児童・生徒一人一人が円滑な学校生活をおくることができるよう、外国人保護者にも配慮した情報発信や環境づくりが必要です。



施策の方向3-1 学校と保護者との連携を深めます

基本的生活習慣・規範意識、読書の習慣などについて、家庭と連携を深める中で定着をめざします。

また、保護者の協力による授業や校外活動における安全確保、保護者同士の交流会設定など、学校と保護者の関係を深める支援に努めます。



読み聞かせボランティア

施策の方向3-2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します

保護者を対象とした学習会や、親子で参加できるイベントなどを開催 し、子ども理解につながる情報を提供するとともに、基本的生活習慣の 確立を支援する取り組みを進めます。また、相談体制の充実により、悩 みや不安を抱える家庭を支えていきます。



親子料理教室

○ 基本目標3の実現に向けた、成果を計る主な指標

指	標	の	内	容	現 状 値 (平成 22 年)	中間目標値 (平成 26 年)	最終目標値 (平成 30 年)
● 施策の	万向 3-1 学	校と保護者と	の連携を深め	<i>かます</i>			
	家庭への連絡 る小学校保護		が十分され ⁻	81.3%	85.0%	90.0%	

※該当保護者数/調査対象保護者数×100

【設定理由】児童・生徒の健全な育成に不可欠な学校と保護者との連携は、課題を共通認識することから始まるため、連携が進められていることを計る指標として設定します。保護者によって「十分」の捉え方が異なることから、平成30年度までに、小学校で90.0%となることを目標値としてめざします。

● 施策の方向 3-2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進しますスクールソーシャルワーカーがかかわるケース数6 件20 件25 件

【設定理由】保護者の悩みや不安が解消され、安心して子どもが教育を受けていることを示す指標として設定します。福祉 的観点からアプローチを図るスクールソーシャルワーカーが効果的にかかわれるよう、勤務体制の充実を図り、かか わるケース数を増やすことを目標とします。

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

子どもは地域で育ちます。異年齢の子どもや経験豊かな人々とのふれあいにより、生きる知恵と社会性を身につけ、思いやりの心をはぐくみます。

学校・地域間の連携を一層進めることで、児童・生徒の活動の充実を図るとともに、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます。

~現状と課題~

- ・ 本市アンケートによると、「地域の活動にもボランティアにも参加したことはない」と回答した児童は25%、生徒は38%に上ります。また、地域における大人と子ども、大人同士がふれ合う機会も減っています。
- ・ 就労形態の変化により、子どもたちが親の労働する姿を目にすることも大変少なくなっています。また、情報化により、日常の生活において人と人とが直接かかわることも少なくなっています。人間関係の希薄さが問題となっている今日、家庭や子どもたちを、長い目で見守り、育て、支える地域が果たす役割の重要性は増しています。子どもたちが他者から認められて自己有用感をはぐくむ機会として、また、憧れる年長者に出会う機会として、期待が高まります。
- ・ 震災後、災害時における子どもの安全確保の視点で、学校や地域のあり方が見直されていると ころです。



施策の方向4-1 地域社会と協働した学校教育を推進します

読み聞かせボランティアをはじめとする学校支援ボランティアなど、地域人材を講師とした教育活動の展開を図ったり、まち探検や職場体験など地域の中で教育活動を展開したりすることで、地域の方々の協力のもと、特色ある学校運営を進めます。



ゲストティーチャーによる 体験学習

施策の方向4-2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます

学校・家庭・地域が、子どもを取り巻く課題を共有できる取り組み を進めます。

また、学校・家庭・地域が、大和市家庭・地域教育活性化会議など社会教育関係諸団体などの地域ネットワークへ参画し、登下校時の見守りや青少年の健全育成のための社会環境浄化活動などを行うことで、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます。



地域行事に参加

○ 基本目標4の実現に向けた、成果を計る主な指標

指	標	の	内	容	現 状 値 (平成 22 年)	中間目標値 (平成 26 年)	最終目標値 (平成 30 年)
● 施策の方	向 4-1 地	域社会と協働	した学校教育	育を推進します	-		
小学校で授業		たゲストティ	ィーチャーの	か1校	24 人	27 人	30 人

※授業を実施した総人数/小学校数

【設定理由】地域の人材を活用した教育活動が展開されていることを計る指標として設定します。平成30年度までに、 授業に協力いただく方を現状と比べて1校あたり6人(学年あたり1人)増やすことを、目標値としてめざします。

● 施策の方向 4-2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます							
65.0%	70.0%						
	65.0%						

※該当生徒数/調査対象生徒数×100

【設定理由】学校・家庭・地域において連携した取り組みが実践され、地域全体で子どもをはぐくむ環境にあることを示す指標として設定します。地域とのつながりが、特に震災以降重視されていること、中学生になると地域とのつながりが薄くなっている現状などを踏まえ、平成30年度までに、小学生の参加率と同程度の70%の参加をめざします。 ※ボランティア活動や地域の活動に参加したことがある児童の割合(平成22年度本市調査)74.7%

資 料

「大和市の教育に関するアンケート結果」

実施:平成22年9月

対象者:市内小中学校で抽出した以下の者

①児 童 370人 / 生 徒 205人

②教 員 275人

③保護者 894人

大和の教育に関するアンケート結果(児童・生徒)

入力数575件

	平成22年度												
問1. あなたの性別を教えてください。	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1. 男	50.8	48.8						48	50.8 3.8				
2. 女	49.2	51.2						4	9.2 51.2				

問2	. あなたは、学校が楽しいですか。(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1.	とても楽しい	37.6	41.9					37	.6 41.9					
2.	まあまあ楽しい	50.3	49.8							50.3 19.8				
3.	あまり楽しくない	8.1	4.9		4.9	3.1								
4.	ぜんぜん楽しくない	4.1	3.4		3.4 3.4									

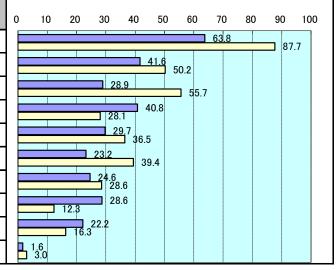
問3. あなたが、学校生活の中で楽しいと感じる時はいつですか。(いくつでも)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・遠足や社会見学などの行事	70.8	68.6	70.8
・クラブ・部活動	69.7	56.4	56.4 69.7
・教科の勉強	23.5	14.2	14.2 23 5
・総合的な学習の時間	18.4	14.7	18.4
·委員会活動	21.4	7.4	7.4 21.4
・学級会・学級活動	16.2	12.7	12.7
·児童会·生徒会活動	6.2	2.5	2.5
・あてはまるものがない	4.6	11.8	4.6 11.8

問4. あなたが、学校生活の中で好きな時はいつですか。 (いくつでも)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・友だちと遊んでいる時	85.7	79.9	79.9
・友だちとのおしゃべりの時	70.5	88.7	70.5
・勉強がよくわかった時	36.8	34.8	36.8
・給食を食べている時	36.2	28.4	28.4 36.2
・先生とのおしゃべりの時	18.6	11.8	11.8
・掃除をしている時	8.4	12.3	8.4
・あてはまるものがない	4.1	4.9	4.9

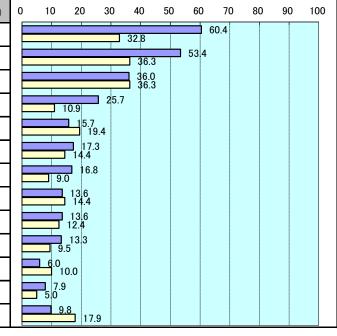
問5	. 学校の勉強はわかりますか。(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
1.	よくわかる	28.7	16.6	16.6 28.7
2.	まあまあわかる	55.0	59.0	55.0
3.	あまりわからない	13.8	17.1	13.8
4.	ぜんぜんわからない	2.4	7.3	7.3



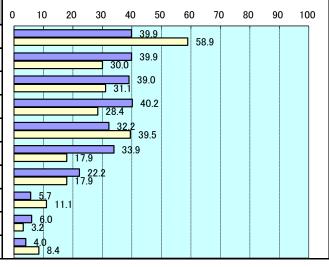




問7. あなたが好きな勉強はなんですか。(いくつでも)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)
・パソコンのインターネットを使ってわからないことを調べること	60.4	32.8
・会社や工場、市場などに見学にいくこと	53.4	36.3
・友だちと協力して発表する内容をまとめること	36.0	36.3
・英語を使った勉強をすること	25.7	10.9
・自分で課題を決めて学習すること	15.7	19.4
・テスト勉強をすること	17.3	14.4
・商店の人などにインタビューや質問をすること	16.8	9.0
・先生の話を聞くこと	13.6	14.4
・自分で新たな課題を見つけて解いていくこと	13.6	12.4
・先生や友だちに自分の考えを話すこと	13.3	9.5
・くりかえして復習すること	6.0	10.0
・調べたりまとめたりしたことを、大勢の人の前で発表すること	7.9	5.0
・あてはまるものがない	9.8	17.9



問8. あなたはどんな先生が好きですか。(3つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)
・勉強をわかるまで教えてくれる	39.9	58.9
・あまり宿題を出さない	39.9	30.0
・なんでも相談にのってくれる	39.0	31.1
・しかったり、怒ったりしないでわかるように注意してくれる	40.2	28.4
・いろいろな道具を使って工夫して教えてくれる	32.2	39.5
・一緒に遊んでくれる	33.9	17.9
・授業のはじまりと終わりをしっかりと守る	22.2	17.9
・テストをよく行ってくれる	5.7	11.1
・よく宿題を出してくれる	6.0	3.2
・あてはまるものがない	4.0	8.4



大和の教育に関するアンケート結果(児童・生徒)

問9. 家ではどんな勉強をしていますか。(2つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・学校の宿題をしている	84.7	37.6	37.6
・塾の宿題をしている	29.7	41.3	29.7 41.3
・好きな勉強をしている	13.6	19.6	13.6
・テストのための勉強	10.8	23.3	10.8
・復習をしている	8.9	14.3	8,9 14.3
・予習をしている	11.9	6.3	6.3
・テストで間違えた問題をやり直している	7.2	6.3	6.3
・家ではほとんどしていない	8.3	24.3	8.3 24.3

問10. あなたは何のために勉強していますか。(3つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・テストで良い点数をとるとうれしいから	57.0	56.7	57.0 56.7
・受験に必要だから	26.0	64.7	26.0
・自分がつきたい仕事につくのに必要だから	38.1	34.8	38.1
・友だちに負けたくないから	24.4	18.9	18.9
・世の中で役に立つ人になりたいから	25.2	14.4	14.4 25.2
・勉強しないと家の人におこられるから	19.2	22.9	19.2
・勉強することが楽しいから	11.5	6.5	6.5
・みんながやっているから	8.8	9.0	8.8
・お金持ちになりたいから	9.3	7.5	7.53
・あてはまるものがない	5.8	6.0	5.8

問11. あなたは、いじめられた時、だれに相談しますか。 (2つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
·母親	55.0	39.4	39.4 55.0
・親しい友だち	28.9	41.4	28.9
·父親	21.4	13.6	13,6 21.4
· 先生	15.6	15.2	15.6
·兄弟·姉妹	8.6	7.1	8.6 7.1
・その他の人	5.0	6.1	5.0
・祖父母(おじいちゃん・おばあちゃん)	3.9	2.0	3.9
・相談機関(テレホン相談など)	2.5	2.0	2.5
・相談しない	20.6	25.8	20.6 25.8
・相談できる人はいません	3.3	4.0	3.3



問12. あなたが、「友だちっていいなぁ」と思うのはどんな時ですか。 (3つ)	小学校 割合(%)	中学校割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・一緒に遊んでくれる時	53.7	29.9	29.9
・何でも相談にのってくれる時	30.6	50.5	30.6 50.5
・こまったことで助けてくれる時	36.8	38.7	36.8
・気持ちが通じ合った時	26.4	33.0	26,433,0
・相手がよろこんでくれた時	23.9	26.8	23.9 26.8
・自分のことをはげましてくれる時	17.7	19.6	17.7
・物の貸し借りを気軽にできる時	19.4	16.0	19.4
・話を良く聞いてくれる時	12.1	19.1	12 19.1
・勉強を教えてくれた時	13.8	10.3	13.8
・誘いを断らない時	7.3	5.2	57.3
・自分のことを注意してくれる時	5.3	7.7	53,7.7
・自分が役に立った時	3.7	7.2	3.7,2
・あてはまるものがない	4.2	3.6	3.6

問13. あなたは、家族のどんなところが好きですか。 (3つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
・話をよく聞いてくれる	35.3	43.9					35.3	43.9					
・お小遣いをくれる	32.5	35.2					32. <u>5</u> 35.2						
・勉強をよくみてくれる(宿題を手伝ってくれるなど)	35.3	15.8			15.8		35.3						
・悪い時はしかってくれる	29.4	25.5				25.5 25.5	9.4						
・一緒に食事をしてくれる	26.9	28.1				26.9 28.	9.1						
・仕事が休みの時、一緒に遊んでくれる	31.4	13.8		\Rightarrow	13.8	=	31.4						
・欲しいものを買ってくれる	23.3	20.4			 2	23.3 0.4							
・よくほめてくれる	25.3	12.8		-	12.8	25.3							
・あてはまるものがない	5.3	16.8		5.3	1 6.8	8							

問14. 将来に夢や目標がありますか(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
1. はっきりとある	48.6	26.7	26.7
2. 少しある	39.6	43.1	39.6 43.1
3. あまりない	5.5	15.8	5.5 15.8
4. ぜんぜんない	6.3	14.4	6.3 14.4

問15. 自分のことが好きですか(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
1. とても好き	13.7	8.1	8.1 13.7
2. 少し好き	41.3	34.0	34.0
3. あまり好きではない	27.9	36.5	27.9 36.5
4. ぜんぜん好きではない	17.2	21.3	17.21.3

大和の教育に関するアンケート結果(児童・生徒)

問16. 今の学年で、ボランティア活動や地域の活動に参加 したことがありますか (1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
・地域の活動には参加したことがある	49.0	23.5			\Rightarrow	23.5		4	9.0				
・ボランティア活動も地域の活動も参加したことがない	25.3	38.0				25.3	 38	3.0					
・ボランティア活動も、地域の活動も参加したことがある	17.4	15.0			7 15.0	.4							
・ボランティア活動には参加したことがある	8.3	23.5		8.3	3	23.5							

問17①. ふだん、何時ごろねますか(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
1. 10時より前	37.6	8.5	8.5
2. 10時~11時	42.0	31.7	31.7 42.0
3. 11時~12時	14.7	33.2	14.7 33,2
4. 12時~1時	3.5	18.1	3.5
5. 1時すぎ	2.2	8.5	2.2 8.5

問17②. 朝ごはんはだれと食べていますか(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
・家族のだれか(大人)といっしょに食べる	32.1	32.5					32.1 32.5						
・一人で食べる	15.6	32.0			15.6	\rightarrow	32.0						
・子どもだけで食べる	21.1	16.0			16.0	21.1							
・家族全員で食べる	18.2	16.0			7 18 16.0	.2							
・食べていない	1.0	3.5	<u> </u>	.0 3.5									

問1	7③. 1日にコンピュータゲームで遊ぶ時間はどのくらいですか(1つ)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 1	10	20 30	40	50	60	70	80	90	100
1.	30分くらい	18.3	9.0		9.0	18.3							
2.	1時間くらい	30.8	24.1			24.1	30.8						
3.	2時間くらい	17.4	21.6			17.4 21.6							
4.	3時間以上	20.7	20.6			20.7 20.6							
5.	やらない	12.8	24.6		12	2.8	6						

大和の教育に関するアンケート集計結果(教員)



			7 17 20 20 - 1 1
			平成22年度
問1. あなたの性別を教えてください	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
1. 男	38.2	60.0	38.2 60.0
2. 女	61.8	40.0	40.0

問2.	あなたの年齢を教えてください	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1.	20代	22.4	19.0				22.4 9.0							
2.	30代	20.0	18.1			18	20.0 3.1							
3.	40代	9.4	19.0		9	.41	9.0							
4.	50代	41.2	39.0					39	41.2 9.0					
5.	60代	7.1	4.8		7.1 4.8									

問3.	あなたの教員経験年数を教えてください。	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1.	10年未満	38.2	35.6					38 35.6	.2					
2.	10年~20年未満	10.6	5.8		5.8	10.6								
3. 2	20年以上	51.2	58.7							51.2 58	3.7			

問4. あなたが、学校教育で大切だと思うことは何ですか	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・基礎的、基本的な知識や技能を身につけさせること	75.3	54.8	54.8
・礼儀や社会のルール・マナーを身につけさせること	52.4	70.2	52.4 70.2
・思いやりの心を育むこと	51.2	51.0	51.2 51.0
・円滑な人間関係を築くことができるようにさせること	52.9	43.3	43,3 52.9
・自ら学び自ら考える力を身につけさせること	47.1	36.5	36.5
・基本的な生活習慣を身につけさせること	27.6	39.4	27.6
・善悪の判断を身につけさせること	31.2	34.6	31.2 34.6
・様々な体験を積ませること	23.5	18.3	18.3 5
・感動する心を育むこと	7.1	15.4	7.1 15.4
・健康な体を育むこと	10.6	11.5	10.6
・国際理解や情報など社会の変化に対応できる知識・技能を身につけさせること	5.9	2.9	2.9
・個性の伸長を図ること	4.1	3.8	4.1 3.8
・その他	1.2	3.8	1.2

問5. 教育課題の中で優先すべきものはどれだと考えま すか	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・基礎基本の定着	74.4	72.4	74.4 72.4
・子どもの仲間づくり	54.8	58.1	54.8 58.1
・心を育む教育	44.0	62.9	44.0 62.9
・いじめ、不登校の対応	33.3	41.0	333 41.0
・少人数指導の充実	38.7	30.5	30.5
・言語活動の充実	36.9	23.8	23.8 36.9
・生きる力	27.4	27.6	27.4 27.6
·特別支援教育	31.5	14.3	14.3

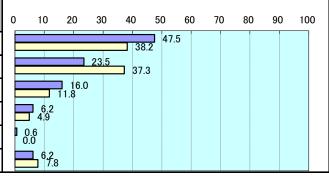
大和の教育に関するアンケート結果(教員)

問5. 教育課題の中で優先すべきものはどれだと考えま すか(続き)	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・授業時間の確保	28.0	16.2	16.2 28.0
・体験活動の充実	24.4	19.0	19.0
・学級崩壊への対応	22.0	16.2	16.2
・学校の安全対策	17.9	17.1	17.9
・理数教育の充実	8.9	7.6	8.9
・情報機器の活用と情報モラルの育成	3.0	13.3	3.0 13.3
・英語活動(外国語教育)の推進	2.4	6.7	1 2 4 6.7
・シチズンシップ教育(市民教育)	2.4	1.9	1.9 2.4 1.9
・二学期制における学習評価	1.2	1.9	1.2 1.9
· 学校評価(外部評価)	1.2	1.0	1.6
・その他	1.8	2.9	1289 L289

問6. あなたは、どのような教師像をめざしていますか	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・よくわかる授業づくりをめざす教師	74.4	72.8	74.4
・子どもの気持ちにより添う教師	61.3	36.9	36.9 61.3
・指導力のある教師	33.3	36.9	33,3
・温かみのある教師	22.6	27.2	22.6 27.2
・子どもたちに平等に接する教師	17.3	31.1	17.3
・クラスをまとめる力のある教師	25.6	13.6	13,6 25.6
・専門的知識の豊かな教師	14.3	24.3	14.3 24.3
・保護者からの信頼が厚い教師	20.2	12.6	12.6 20.2
・子どもに慕われる教師	7.1	4.9	4,9
・地域とのかかわりを大切にする教師	6.0	3.9	3.9
・公私をはっきりさせる教師	2.4	5.8	2.4
・その他	0.6	2.9	0.6 2.9

問7. 学校教育における中学校の部活動のあり方	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・学校から切り離して、社会体育に移行していく	29.9	23.1	23,129,9
・全教職員が協力して担当するようにする	22.9	28.8	22.9
・現行のままでいい	14.6	32.7	14.6 32.7
・ボランティアを入れてもっと活動を盛んにする	18.5	7.7	7.7
・学校間交流する	8.9	4.8	4,8.9
・もっと活動を縮小する	5.1	2.9	51 2.9

問8. 家庭・地域との連携のために特に必要なこと	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	
・学校からの情報公開・情報提供	47.5	38.2	
・学校と地域・家庭の連携行事を増やす	23.5	37.3	
・PTA活動の充実	16.0	11.8	
・多くの教員が地域の行事に参加する	6.2	4.9	
・学校評議員制度の活用	0.6	0.0	
・その他	6.2	7.8	





問9. 子どもにとって魅力ある教育活動を展開するため の工夫	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・授業研究の充実	72.2	60.0	60.0
・関心・意欲を呼び起こす工夫	53.3	60.0	53 3 60.0
・教材・教具の開発	62.1	35.2	35.2 62.1
・集団における仲間づくりの推進	35.5	41.0	35.5 41.0
・行事内容の工夫	16.6	36.2	16.6 36.2
・少人数指導の拡大	22.5	21.9	22.5 21.9
・学習形態の工夫	11.2	13.3	11.2
・地域との連携	6.5	3.8	3.8
・カリキュラム開発	5.3	1.9	5.3
・日課表の工夫	1.8	2.9	1.8 2.9
・その他	0.6	1.0	0.6 1.0

問10. あなたは、家庭や保護者にどのようなしつけを 要望しますか	小学校 割合(%)	中学校割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・善悪の判断	67.6	64.8	67.6
・あいさつや感謝に対する態度	66.5	63.8	66.5
・言葉遣い	31.8	27.6	31.8
・早寝早起き	24.7	17.1	17.1 24.7
・約束を守る	19.4	20.0	19.4
・友だちと仲良くする	24.7	10.5	10.5
・わがままを言わない	17.1	20.0	17.1 20.0
・時間を守る	11.2	20.0	11.2 20.0
・家庭学習	7.6	19.0	7.6
・身のまわりの整理整頓	14.7	6.7	6.7 14.7
・計画を立てて生活する	1.8	6.7	1186.7
・その他	4.1	8.6	8.6

問11. あなたは、家庭や保護者にどのような協力を望みますか	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・朝食を食べさせてから登校させてほしい	57.6	57.8	57.6
・家庭での会話を増やしてほしい	52.9	56.9	57.8 52.9 56.9
- 子どもの小さな頑張りでも認めてあげてほしい	65.3	40.2	40.2
・友だちに迷惑をかけないようにさせてほしい	32.4	24.5	24.5 32.4
・忘れ物をさせないようにしてほしい	31.2	19.6	19.6
・授業参観や懇談会に参加してほしい	24.7	23.5	24,7 23,5
・遅刻をしないようにさせてほしい	6.5	34.3	6.5
・PTA活動に参加して欲しい	8.2	3.9	3.98.2
・地域の教育力として学習活動に力を貸してほしい	4.1	2.0	2.0
・その他	1.8	6.9	18 6.9

大和の教育に関するアンケート結果(教員)

問12. 学力低下論が話題になっていますが、どのように 考えますか	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・生きる力と基礎基本のバランスが大切だと考える	62.0	55.4	55.4 62.0
・低下していると思う	33.1	53.5	33 1 53.5
・今の学力観と数年前の学力観は違うので比較できない	28.9	19.8	19.8 28.9
・以前のように教える知識の量を増やすべきと考える	9.0	15.8	9.0
・生きる力をつける方が大切だと考える	15.7	5.0	5,0 15.7
・授業時間数や教える内容が減っているので問題とは思わない	8.4	3.0	3.0
・あてはまるものがない	3.6	4.0	3.6
・学力はむしろ上がっていると感じる	1.8	0.0	0.08
・その他	8.4	10.9	8.4

問13. 学習の様子で、10年前と比べて次のように感じる ことはありますか	小学校 割合(%)	中学校割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・いろいろな知識をもった子どもが増えた	67.5	34.0	34.0
・発表する力が上がった	11.7	22.0	11.7 22.0
・調査・研究活動への取り組みが活発になった	9.1	18.0	9.1
・授業中に発言や質問をする子どもが増えた	7.8	8.0	7.8 8.0
・学習意欲が感じられる子どもが増えた	6.5	4.0	4.0.5
・授業中に私語をする子どもが減った	1.3	8.0	1.3 8.0
・ノートを積極的にとる子どもが増えた	3.9	2.0	39
・その他	18.2	34.0	18.2 34.0

問14. 学校生活で、10年前と比べて次のように感じる ことはありますか	小学校 割合(%)	中学校 割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・コミュニケーションをとれない子が増えた	81.4	77.4	81.4
・そうじをきちんとしなくなった	53.9	41.9	41.9 53.9
・協力できない子が増えた	49.0	43.5	49.0
・あいさつのできない子どもが増えた	43.1	22.6	<u>J 22.6</u> 43.1
・忘れ物をする子が増えた	31.4	29.0	31.4
・係や委員会活動にきちんと参加できない子が増えた	24.5	17.7	17.7 24.5
・遅刻が多くなった	10.8	21.0	10.8
・その他	3.9	16.1	3.9 16.1

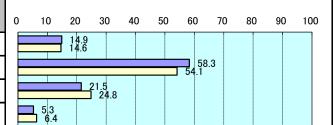
問15. 10年前と比べての基本的な生活習慣	小学校 割合(%)	中学校割合(%)	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
1. かなりある	44.3	34.8	34.8
2. 少しある	49.1	48.5	49.1
3. ほとんどない	5.7	16.7	5.7
4. むしろしっかりしていると感じる	0.9	0.0	0.0

大和の教育に関するアンケート結果(保護者)

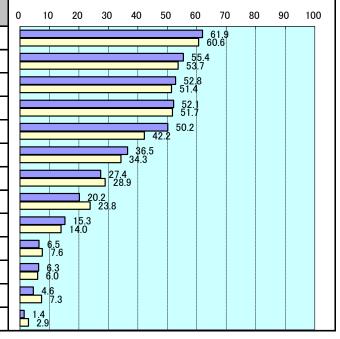


								•		•	
			3	平成22	2年度	Ę					
問1. あなたの性別を教えてください	小学校 割合%	中学校割合%	0 10 20	30	40	50	60	70	80	90	100
1. 男	8.4	7.9	8.4 7.9								
2. 女	91.6	92.1									91.6 92.1

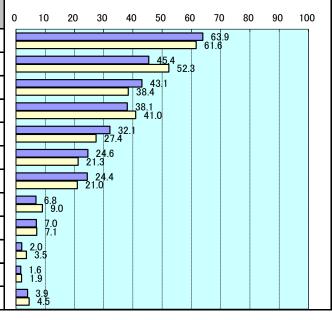
問2. あなたのお子さんの人数について教えてください	小学校 割合%	中学校割合%	0 10 20 30
1. 1人	14.9	14.6	14.9 14.6
2. 2人	58.3	54.1	
3. 3人	21.5	24.8	21.5 24.8
4. 4人以上	5.3	6.4	53



問3. 学校教育で大切だと思うことは何ですか(4つ)	小学校 割合%	中学校 割合%
・礼儀や社会のルール・マナーを身につけさせること	61.9	60.6
・自ら学び自ら考える力を身につけさせること	55.4	53.7
・基礎的、基本的な知識や技能を身につけさせること	52.8	51.4
・円滑な人間関係を築くことができるようにさせること	52.1	51.7
・思いやりの心を育むこと	50.2	42.2
・様々な体験を積ませること	36.5	34.3
・善悪の判断を身につけさせること	27.4	28.9
・基本的な生活習慣を身につけさせること	20.2	23.8
・健康な体を育むこと	15.3	14.0
・国際理解や情報など社会の変化に対応できる知識・技能を身につけさせること	6.5	7.6
・感動する心を育むこと	6.3	6.0
・個性の伸長を図ること	4.6	7.3
・その他	1.4	2.9



問4. あなたは、どのような教師を望みますか(3つ)	小学校 割合%	中学校 割合%
・よくわかる授業づくりをめざす教師	63.9	61.6
・子ども達に平等に接する教師	45.4	52.3
・子どもの気持ちにより添う教師	43.1	38.4
・指導力のある教師	38.1	41.0
・クラスをまとめる力のある教師	32.1	27.4
・子どもに慕われる教師	24.6	21.3
・温かみのある教師	24.4	21.0
・専門的知識の豊かな教師	6.8	9.0
・保護者からの相談に快く時間を割いてくれる教師	7.0	7.1
・公私をはっきりさせる教師	2.0	3.5
・地域とのかかわりを大切にする教師	1.6	1.9
・その他	3.9	4.5



大和の教育に関するアンケート結果(保護者)

問5. 家庭でのしつけで大切にしているものは何ですか (3つ)	小学校 割合%	中学校 割合%	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・あいさつや感謝に対する態度	76.5	73.7	73.7
・善悪の判断	59.4	60.4	59.4
・約束を守る	47.1	41.9	47.1
・友だちと仲良くする	24.6	22.4	24.6
・言葉遣い	20.3	20.5	20.3 20.5
・時間を守る	16.8	23.4	16,8
・身のまわりの整理整頓	18.0	14.9	18.0
・早寝早起き	11.4	7.5	7.511.4
·家庭学習	7.7	6.8	6.8
・計画を立てて生活する	5.5	9.1	5.5
・わがままを言わない	2.1	2.9	2.1 2.9
・その他	3.7	3.6	3.7

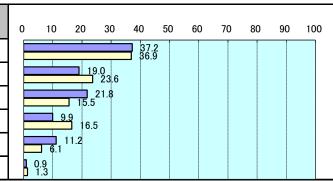
問6.子どもを育てる上で家庭教育として大切だと思うこと (3つ)	小学校 割合%	中学校割合%	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・人を思いやる心を育てること	79.2	75.2	79.2
・あいさつや社会のルールを教えること	76.2	73.0	76.2 73,0
・善悪の判断を身につけさせること	68.2	68.8	68.2
・しつけをすること	34.5	36.0	34.5 36.0
・知識を身につけさせること	13.0	11.3	13.0
・学力をつけさせること	5.9	7.7	5 9 7.7
・自然体験をさせること	7.1	5.1	7.1
・情操教育を行うこと	3.7	4.8	3,7
・ボランティア体験をさせること	0.9	0.3	0.9
・その他	2.1	1.9	2.1

問7. PTA活動に参加協力した時、どのような思いで参加 されますか(1つ)	小学校 割合%	中学校割合%	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・みんなと協力することは大切だから	36.4	45.1	36.4 45.1
・自分自身の良い経験だから	26.2	22.2	26.2
・より多くの人と出会えるから	11.0	14.7	11.0
・さそわれてなんとなく参加	7.2	5.9	5.9
・新しい経験ができるから	7.2	5.2	5,2
・その他	12.0	6.9	6.9 12.0

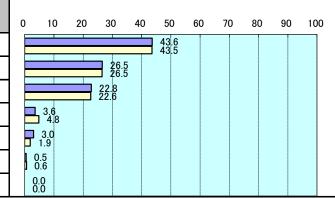
問8. 学校・家庭・地域との連携のために特に必要なこと (1つ)	小学校 割合%	中学校割合%	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
・学校からの情報公開・情報提供	57.9	56.2							57 56.2	.9			
・学校と地域・家庭の連携行事を増やす	26.2	28.1		_		1 26.2	.1						
・PTA活動の充実	5.6	5.2		5.6 5.2									
・多くの教員が地域の行事に参加する	5.1	5.2		5.1 5.2									
・学校評議員制度の活用	1.4	2.0] B :	1.4 2.0									
・その他	3.8	3.3		3.8 3.3									



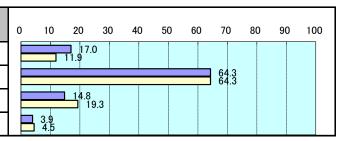
問9. 地域の活動として今後特に取り組まなければならない ことは何だと思いますか(1つ)	小学校 割合%	中学校 割合%	
・困った時に助け合える関係づくりの取り組み	37.2	36.9	
・社会的ルールを身につけさせる取り組み	19.0	23.6	
・地域の安全を守る取り組み	21.8	15.5	
・奉仕活動やボランティア活動の取り組み	9.9	16.5	
・自然体験・生活体験を豊かにする取り組み	11.2	6.1	
・その他	0.9	1.3	



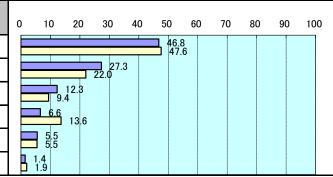
問10. あなたは、学校の教育活動への協力についてどう お考えですか(1つ)	小学校 割合%	中学校割合%
・協力のお願いがあれば、できるだけのことをしたい	43.6	43.5
・協力のお願いがあれば、内容によっては協力したい	26.5	26.5
・自分から進んで協力する姿勢を持ちたい	22.8	22.6
・協力のお願いがあっても、あまり協力できない	3.6	4.8
・自分から進んで協力するのがあたり前である	3.0	1.9
・関心がない	0.5	0.6
・協力のお願いがあっても、協力しない	0.0	0.0



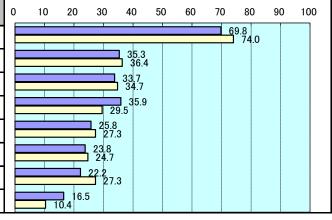
問11. 学校から家庭への連絡や情報提供はされていると 思いますか(1つ)	小学校 割合%	中学校割合%
・十分していると思う	17.0	11.9
・十分とはいえないが一応していると思う	64.3	64.3
・不十分であると思う	14.8	19.3
・わからない	3.9	4.5



問12. 地域の子どもの教育について協力できることはどん なことでしょうか(1つ)	小学校 割合%	中学校割合%
・子どもとあいさつをかわす	46.8	47.6
・子どもの良い行いを見かけたらほめて、悪い行いを見かけたら注意する	27.3	22.0
・自分から地域の行事に積極的に参加する	12.3	9.4
・何かあったら、家庭や学校に連絡する	6.6	13.6
・地域の子どもを対象とした行事やボランティア活動を進んで実施する	5.5	5.5
・その他	1.4	1.9



問13. 今の小中学生に特に身につけてほしいと思うことは何ですか。(3つ)	小学校 割合%	中学校 割合%
・思いやり・協調性	69.8	74.0
・責任感	35.3	36.4
・基本的な生活習慣	33.7	34.7
・忍耐強さ	35.9	29.5
・自主・自立性	25.8	27.3
・生命尊重・自然愛護	23.8	24.7
·意欲	22.2	27.3
・公共心・公徳心	16.5	10.4



大和の教育に関するアンケート結果(保護者)

問13. 今の小中学生に特に身につけてほしいと思うことは 何ですか。(3つ) (続き)	小学校 割合%	中学校 割合%	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
・探究心	8.9	9.1		8.9 9.1)								
· 体力	7.8	8.1		7.8 8.1									
・豊富な知識・高い学力	6.6	5.5		6.6 5.5									
・公正・公平さ	3.7	3.9	\blacksquare	3.7 3.9									
・ボランティアの精神	2.7	1.9		2.7 1.9									
・その他	1.8	1.9	В	1.8 1.9									

問14. 学力低下論についてどのように考えますか (いくつでも)	小学校 割合%	中学校 割合%	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・低下していると思う	56.6	56.6	56.6 56.6
・生きる力と基礎基本のバランスが大切だと考える	44.8	40.5	44.8
・以前のように教える知識の量を増やすべきと考える	35.8	29.4	29.4
・今の学力感と数年前の学力感は違うので比較できない	14.5	13.3	14.5
・生きる力をつける方が大切だと考える	10.3	12.6	10.3 12.6
・授業時間数や教える内容が減っていたので問題とは思わない	6.0	4.2	6.0
・あてはまるものがない	3.2	3.6	3.2
・学力はむしろ上がっていると感じる	1.1	0.3	0.3
・その他	10.8	11.7	10.8

問15. お子さんを学習塾に行かせたり習い事をさせていますか (1つ)	小学校 割合%	中学校 割合%	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・学習塾にも習いごとにも行かせている	28.2	23.0	23.0
・学習塾には行かせているが、習い事はさせていない	9.1	34.3	9.1 34.3
・学習塾には行かせていないが、習い事はさせている	49.7	17.8	17.8
・学習塾にも習いごとにも行かせていない	13.0	24.9	13.0 24.9

問16. お子さんを学習塾に行かせている理由は何ですか (2つ)	小学校 割合%	中学校 割合%	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
・学校で習ったことが十分に理解できていないから	48.1	64.7	48.1
・学校で習うこと以上のことを学ばせたいから	47.6	32.9	32,9 47.6
・特に考えていないが、子どもが行きたいと言ったから	11.1	14.5	11.1
・放課後の子供の居場所として安全や保護が期待できるから	4.3	2.3	2.3
・ほとんどの子どもたちが塾に行っているようだから	1.9	3.5	1.9
・その他	23.1	22.0	23.1

問17. お子さんに習い事をさせている理由は何ですか (2つ)	小学校 割合%	中学校 割合%	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
・自分の子どもの可能性や能力を伸ばしてあげたいから	32.5	35.4					32. <u>5</u> 35.4						
・スポーツや体力の向上を期待するから	20.4	15.2			1 5.	20.4 2							
・学校とは別の場において、新たな体験活動が期待できるから	19.3	16.7			-	19.3 3.7							
・学校とは別の場において、新たなふれあいが期待されるから	10.0	8.1		8.	0.0								
・情操教育になるから	6.2	10.1		6.2	0.1								
・特に考えていないが、子どもが習いたいと言ったから	6.2	8.1		6.2 8.	1								
・放課後の子どもの居場所として安全や保護が期待できるから	0.8	0.0	ו	0.8 0.0									
・ほとんどの子どもが習い事をしているようだから	0.3	0.0		0.3 0.0									
・その他	4.4	6.6		4.4 6.6									

大和市学校教育基本計画

~ 実施計画編(平成 24~26 年度)~

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

施策の方向1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

(目標達成に向けた主な事務事業)

項目	学用品等就学援助			学校教育課		
事業内容	学校教育法の規定に基づき、経済的理由により就学が困難な家庭の負担を軽減するため、 給食費や学用品費を援助します。 ※給付者数は、経済状況によって大きく増減しま す。経済状況を注視し、効率的な援助に努めま す。					
	平成 24 年度	平成 25 4	年度	平成 26 年度		
年次計画	受給者数 小: 3,362 人 中: 1,714 人	同左 小:3,36 中:1,68		同左 小 3,395 人 中 1,631 人		

項目	不登校・いじめ対策			指 導	室
事業内容	教職員や保護者への啓発のため トの配布やフォーラムを開催し また、教職員が共通認識を持っ 理解し問題解決を図る研修会を				₫·生徒を
	平成 24 年度	平成 25 :	年度	平成	26 年度
	(新1年生分) リ-フレットの配布 枚数 2,000枚				
年次計画	フォーラムの 開催 1 回				
	児童·生徒指導研修会(訪問) 小 10 回	同左 小 9 回			司左 中 9 回
	3年計画で全校	実施します。			

項目	外国人児童・生徒: 支援	教育 _担 当	指 導 室			
事業内容	外国人児童・生徒の学校生活や学習の支援の ため、日本語指導員や外国人児童・生徒教育 相談員を派遣します。 また、就学前児童が学校生活にスムーズに入 れるよう、相談員等を派遣します。					
	平成 24 年度 平	成 25 年度	平成 26 年度			
	日本語指導員 派遣回数 418 回					
年次計画	外国人児童·生徒 教育相談員派遣 回数 473 回					
	就学前指導 (プレスク-ル)50 回					
	上記のほか、大和市国 ランティアの指導員を					

項目	不登校対策		担当	青少年相談室	
事業内容	学校復帰を目途に教育支援教室(まほろば教室)を運営するとともに、各学校での不登校に対する取り組みが活性化されるよう、各学校へ積極的に働きかけていきます。				
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度	
<i>f</i>	まほろば教室 通室人数 30人 (年度末登録者数)				
年次計画	F 『進級· 進学時 連携支援シート』 の導入				
「長期欠席児童・生徒報告書」の様式及び運用 法を見直し、早期対応への取り組みを推進します					

項目	不登校対策支援員配置	担青少年相談室
事業内容	不登校対策支援員を配置し 校に対する取り組みが活性 学校へ積極的に働きかけて	生化されるよう、各
	平成 24 年度 平成 25 年	度 平成 26 年度
年次	不登校対策支 同左 援員配置校数 2 校	同左 3 校 4 校
年次計画	現在中学校2校に配置していが実証されているため、今後 図っていきます。	

項目	電子黒板整備 (特別支援教室	室)	担当	指 導 室		
事業内容	全小・中学校の特別支援教室に、特に障がいがある児童・生徒に高い教育効果が望まれる、電子黒板を整備します。 ※通常の学級(普通教室)については、平成22年度に小学校全校に整備済み。					
	平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年度					
年次計画	電子黒板の 設置 28 校(全校)	電子黒板の活用				

項目	特別支援教育/配置	担当	指 導	室	
事業内容	支援を特に必要とする、障がいがある児童・ 生徒を幅広くサポートする特別支援教育へル パーを配置します。				
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成	26 年度
年	ヘルパー配置 人数 65 人	同左 70	人	F	司左 70 人
年次計画	配置人数につい 出し、その充足を配置します。			. – .	7

項目	学校教育相談員	配置	担当	青少年相談室		
事業内容	小学校に「子どもと親の相談員」を、中学校に「心の教室相談員」を配置し、児童・生徒、保護者、教職員からの相談を受けます。					
	平成 24 年度	平成 25 :	年度	平成 26 年度		
年次計画	相談員の配置 日数 小:週1日 中:週2日					
	学校教育相談員 対象研修 3回					
	教育相談体制の充実を図るため、平成 24 年度より 特別相談員(臨床心理士)を定期的に学校に派遣し ます。					

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

- ・ 外国にルーツをもつ児童・生徒と保護者を対象に、教科学習と保護者の日本語学習を支援します。(渋谷学習センター/親子の日本語教室)
- ・ 主に障がいがある児童の就学にあたり、保護者が適切な進路を選択できるよう、医師や特別支援学校の教 員、福祉関係者などにより検討し、その審議結果を保護者に助言します。(障がい福祉課/障害者処遇委 員会)

- ・ 国際教室担当教諭を中心に、大和市国際化協会のボランティアや日本語指導員の支援をいただきながら、 個別対応の時間確保に努め、きめ細やかに学習指導や生活指導を行っています。
- ・ 日常における教育相談活動のほか、年間 $2\sim3$ 回の教育相談期間を設定し、生徒全員ときめ細かい相談活動を行っています。
- ・ 子どもにとって安心できる居場所となる学級・学校づくりを推進しています。
- ・ 保護者や児童・生徒にいじめのアンケートをとり、実態調査をするとともに、全学年で共通の題材を用いて、いろいろな人の立場に立ってその時の気持ちを考えるいじめ防止の授業を実施しています。
- ・ 一人一人を大切にするきめ細かな指導や日常の教育相談活動に努め、不登校の早期発見やいじめ問題の未 然防止に向けて取り組んでいます。
- ・ 不登校やいじめ問題の解決にむけて、ケース会議等を開催して教職員間の情報共有を図り、組織的に対応 しています。
- ・ 教育相談コーディネーターを中心に、一人一人の教育的ニーズに基づく支援体制の構築をめざします。

施策の方向2 "確かな学力"を身につける教育を進めます

(目標達成に向けた主な事務事業)

	(日保建物に同りに工る事物事業)					
項目	少人数指導等非 講師配置	非常勤	担当	学校教育課		
事業内容	小学校については、1 学級の児童数が 35 人以上の学年に、中学校については、第 1 学年を対象として、平均生徒数が 35 人以上の学年に、非常勤講師を配置します。					
	平成 24 年度	平成 25 4	年度	平成 26 年度		
·						
年次計画	講師配置校数 小・中学校 合わせて 10 校					

項目	小・中学校教材	才等整備 担当	指導室		
事業内容	小・中学校の教育活動に必要な教材(跳び箱 やサッカーゴール、楽器、ミシン等)を整備 します。 また、適正な教材選定等を検討するため、教 材教具研究協議会を開催します。				
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度		
年次計画	(学校からの 要望に基づく) 教材の配布				
曲	教材教具研究協議会において取り決めた"児童・生徒数に応じた必要な備品数"などを配布の基準とし、学校要望に応じた教材備品を配布します。				

I	頁目	指導図書等整備	青	担当	指 導 室	
101 F. 21	事業为容	教員に教科書、準教科書(道徳、体育、進路 *中学校のみ)、指導書(道徳、体育)及び指導 用教材を配布します。				
		平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年原	蒦
4	年	指導用配布				
	年欠計画	教科書の種目数 小:11種目 中:15種目				

項目	読書活動の推進	担当	指 導 室		
事業内容	子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、平成 24 年度より新たに読書フォーラムを開催します。 また、(仮称) 大和市子ども読書感想文コンクールを実施します。				
	平成 24 年度 平成 25 年度 平成 7オ-ラムの開催 回数 1 回				
年次計画	(仮称)大和市子 ども読書感想文 コンケールの実施				
	平成 24 年度は、読書活動の一層の普及をテーマにフォーラムを開催する予定です。また、学校での朝読書や家読(家庭での読書)を推奨していきます。				

項目	英語教育の推進	<u>É</u>	担当	指導室	
事業内容	外国語を通じたコミュニケーション能力をは ぐくむため、中学校に英語指導助手3名、小 学校に外国語活動指導助手7名を派遣しま す。				
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度	
<i>f</i>	英語指導助手 の派遣時数 8~12 時間/学紀	级			
年次計画	外国語活動指導 助手の派遣時数 (5・6 年生) 35 時間/学級 (1~4 年生) 2~5 時間/学級				

項目	情報教育の推進	<u>進</u>	担当	教育研究所	
事業内容	ICT機器を活用する授業の実践に関する研修講座と調査研究を実施します。				
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度	
	情報モラルに関する調査研究	研究成果の普及・実践			
年次計画		情報教育に関する調査研究			
画	情報セキュリティ に関する研修 回数	同左		同左	
	講座 5 回 訪問 小 19 回	3 中 9		3回小10回	

項目	理科教育·環境教育の 推進		担当	教育研究所	
事業内容	教職員や市民を対象とした、理科教育・環境 教育に関する、実験・体験を中心とした研修 事業を開催します。				
	平成 24 年度	平成 25 :	年度	平成 26 年度	
	小学校理科 副読本改訂版 の発刊	同左		同左	
年次計画	(新 3·4 年生) 5,000 冊	(新 3 2 2,30		(新 3 年生) 2,300 冊	
ū		小学校理和 副読本指述 資料集発 2,000 ff	· 尊 刊		

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

- ・ 消費者問題について、正しい基礎知識を身につけるため、消費生活相談員が学校に出向き家庭科などの授業において講義をします。(市民相談課/消費生活出前講座)
- 環境に対する小・中学生の理解を深めるとともに、 自発的な学習態度を形成するため、「かんきょう ノート」の配布や、「やまとみどりの学校プログ ラム」を推進します。(環境総務課/環境意識啓 発事業)
- ・児童が下水道に関する正しい知識を身につける ことができるよう、市職員が学校へ出向き、社会 科の学習や環境教育の一環として、講義を行いま す。(都市施設総務課/下水道出前授業)

・ 創作する喜びを体得し、科学・技術に関する知識・興味の向上を図るため、作品を募集し、優秀作品を表彰 します。また、市内中小企業経営者による「もの作り」に関する講演を実施します。(産業活性課/青少 年創意くふう展)

- ・ 少人数学級や少人数指導、ティームティーチングによる指導、スクールアシスタントによる個別支援、学 習支援ボランティアの活用など多様な指導形態により、個に応じたきめ細やかな指導を進めています。
- ・ 電子黒板等の I C T機器などを活用し、授業改善に努めています。
- ・子どもたち同士の学び合いや多様な体験を通じた課題探究型の授業や、指導と評価が一体となった授業を めざしています。
- ・ ゲストティーチャーとして外部の方を講師にお招きし、学びを広げる工夫をしています。

施策の方向3 体験活動を充実します

(目標達成に向けた主な事務事業)

	候連別に回げた土は事	份争录	(日信達別に凹げた土は事務事業)				
項目	中学校部活動支援	担当	指導室				
事業内容	学校教育の一環として有意義である部活動の 充実のため、地域の方に指導者として協力し ていただきます。 また、中学校体育連盟主催全国大会等の出場 校には派遣費を支給します。						
	平成 24 年度 平成 25	年度	平成 26 年度				
年次計	外部指導者の 派遣人数 30 人						
年次計画 30人 部活動の指導にあたり、専門性をもった教員が校にいないなど、派遣の必要性が学校で生じた合に支援します。							

項目	体験活動の推進		担当	指 導	室
事業内容	健康増進につながる宿泊体験学習などの体験 活動が行われるよう、支援をします。				
	平成 24 年度	平成 25 :	年度	平成	26 年度
年次	健康增進事業 補助金交付 校数 28 校				
年次計画					
	集団活動の楽し めに、各小学校 第 2 学年時に行 部を助成します。	では第 5 学 うキャンプ	年時1	こ、各中	学校では

項目	職場体験学習の	D推進	担当	指 導	室	
事業内容	中学校で職場体験学習が推進されるよう、職場体験の受け入れに協力する市機関の一覧表を作成し、各校へ配布します。 ※職場体験受入れ機関:コミュニティセンター、学校給食共同調理場、市立保育園、市立図書館、グリーンアップセンター、消防署など					
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成	26 年度	
年次計画	職場体験協力 機関一覧表の 作成・配布					
画	画					
	上記のほか、学験推進に向けた				まへ職場体	

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

- ・総合的な学習の時間などに認知症サポーター講座を行い、認知症サポーターとして養成する機会を設け、あわせて高齢者や福祉への理解を深めます。(高齢福祉課/認知症サポーター講座)
- ・ 連帯感、達成感、決断力や協調精神等を養うため、 帆船をチャーターし、3泊4日のセイルトレーニ ングを行います。(こども・青少年課/少年洋上 体験)
- ・各学習センターでは、夏休み期間を利用し、ボランティア体験やものづくり教室などを企画・開催し、異学年交流など様々な体験の機会を提供します。(生涯学習センター/学習センター事業等)

- ・ 子ども祭りやなわとび大会など、年間を通して異年齢集団で活動する機会を設定し、社会性や思いやりの 気持ちをはぐくんでいます。
- ・ 地域にある老人福祉施設や保育園での交流やボランティア活動を通して、地域の一員としての社会性を培っています。
- ・ 1年生の職場訪問、2年生の体験学習を積極的、計画的に取り入れ、キャリア教育を推進しています。

施策の方向4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります

(目標達成に向けた主な事務事業)

, — ,	示圧例に回りた		254		
項目	道徳教育の推進	<u>#</u>	担当	指 導 室	
事業内容	教職員向けに道徳教育に係る校内研修会の支援をします。 また、授業研究を通して個別に指導し、道徳 教育の指導力向上を図ります。				
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度	
年次計画	教育課題(道徳)研究推進校への 支援			各学校へ ・	
置					
	研修会の開催 回数 1回				

項目	人権教育の推進		担当	指 導 室 教育研究所	
事業内容	教職員向けに人権教育に係る研修会を開催するとともに、児童・生徒向けの講演会に対し、 講師紹介をするなどの支援をします。				
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度	
年	研修会の開催 回数 4回				
年次計画					
曲	児童· 生徒対象講演会への支援件数7件				

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

- ・ 福祉の心をはぐくむため、福祉作文を募集し、優秀作品をまとめた福祉作文集「芽ばえ」を関係各所に配 布します。(健康福祉総務課/福祉作文)
- ・ 中学生を対象に人権作文及び人権ポスターを募集、表彰することで、生徒の人権意識高揚を図ります。(国際・男女共同参画課/人権作文コンテスト・人権ポスター募集)
- ・ 将来を担う子どもたちに平和の尊さを語り継ぐため、語り部を学校に派遣します。(国際・男女共同参画課/語り部の派遣)

- ・ 子どもたちの心のゆさぶりを視点とし、週1回の道徳の時間の充実を図っています。
- ・ 4年生の総合的な学習の時間に、福祉の視点から、施設訪問、車いす・点字・盲導犬体験など体験的な学習を取り入れた授業を進めています。
- ・ 受講した人権教育の研修内容を伝達し、学校全体で意識啓発を図ります。
- ・ 平和学習の一環として、修学旅行で被爆地である広島を訪問し、平和祈念館の見学や被爆者の話を聞く取り組みが行われています。

施策の方向5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります

(目標達成に向けた主な事務事業)

項目 読書活動の推進(再掲) 担当 指導室 子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、平成 24 年度より新たに読書フォーラムを開催します。 また、(仮称) 大和市子ども読書感想文コンクールを実施します。 平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年度 フォーラムの開催回数 1回 (仮称)大和市子ども読書感想文コンクールの実施 平成 24 年度は、読書活動の一層の普及をテーマにフォーラムを開催する予定です。また、学校での朝読書や家読(家庭での読書)を	(日际连以に凹げた工体争物争未)					
事業内容 め、平成 24 年度より新たに読書フォーラムを開催します。 また、(仮称) 大和市子ども読書感想文コンクールを実施します。 平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年度 フォーラムの開催回数 1回 (仮称)大和市子ども読書感想文コンクールの実施平成 24 年度は、読書活動の一層の普及をテーマにフォーラムを開催する予定です。	項目	読書活動の推進	進(再掲)	担当	指 導 室	
フォーラムの開催 回数 1 回 (仮称)大和市 子ども読書感想 文コンケールの実施 平成 24 年度は、読書活動の一層の普及をテーマに フォーラムを開催する予定です。	事業内容	め、平成 24 st を開催します。 また、(仮称) フ	東度より新	たに言	読書フォーラム	
	年次計画	フォーラムの開催 回数 1回 (仮称)大和市 子ども読書感想 文コンクールの実施 平成 24 年度は、 フォーラムを開作	読書活動の	—層 <i>の</i> です。	つ普及をテーマに	

項目	学校図書館教育	育の推進	担当	指 導 室
事業内容	的に発信すると 業支援を行いま また、学校の言	さともに、 きす。 引書教諭や 会を開催す	読み聞学校図	本の魅力を積極 聞かせなど、授 図書館司書を対 ともに、司書連 進進します。
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
年次計画	司書教諭等・ 学校図書館司書 対象研修会の 開催回数 2回			
出	学校図書館 司書連絡会の 開催回数 3 回			

項目	中学校図書館が	拖設整備	担当	指 導 室
事業内容		ごもたちの 二図書室を	自主的整備	
年次	平成 24 年度 中学校における 整備内容の検討	平成 25 4	丰度	平成 26 年度
年次計画		学校図書館 の改修 大和 ⁻ 他3 #	中学校	つきみの

項目	芸術鑑賞等学校行事 支援		担当	指 導 室
事業内容	児童・生徒が優れた伝統文化や芸術に接する 機会保障のため、費用助成を行います。			
	平成 24 年度	平成 25 :	年度	平成 26 年度
年	文化的行事 への助成校数 28 校			
年次計画	文化的行事の推 回程度開催する 費用の一部を助り	、演劇や音		

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

- ・ 読書活動の啓発や市立図書館をPRするため、小学5~6年生を対象に、図書館員として本の貸出・返却 にかかわる業務体験や、館内見学を行います。(図書館/一日図書館員)
- ・ 学習センターにおいて、幼児や児童及び保護者が本に親しむ機会を設けるため、絵本のお話会などを開催 しています。(生涯学習センター/学習センター事業等)
- ・ 子どもたちの文化芸術に親しめる環境をつくるため、美術鑑賞教育を導入していきます。平成24年度以 降、モデル校による対話型鑑賞を試行的に実施します。(文化振興課/美術鑑賞推進事業)

- ・ 図書委員会の活動の一つとして、お薦め本の紹介や読書冊数の多い児童・生徒の表彰をしています。
- 教育活動における読書活動の充実や、朝読書の推進及び保護者による読み聞かせ等、本に親しむ時間を積極的に設けています。
- ・ 図書館司書を中心に、季節本のコーナーを設けるなど、親しみやすい学校図書館の環境づくりに努めています。
- ・ 生活科や社会科、音楽科などの授業において、こまやお手玉、水墨画、和太鼓など日本の伝統文化にふれ る機会を設けています。

施策の方向6 健康・安全教育を充実します

(目標達成に向けた主な事務事業)

(日际建以に凹げた土体争物争未)					
項目	健康・安全教育	育の推進	担当	指 導	室
事業内容	児童・生徒が災することができ 力を育成する優	きるよう、ま	基礎的	りな知識	畿と実践
在	平成 24 年度 健康・安全教 育担当者会の	平成 25 年	度	平成	26 年度
年次計画	開催回数 1回 防災教育研究 部会の開催回数 8~10回	授業	 等にま	/ おいて実	\ 践 /

項目	学校給食における食育 の推進		担当	保健給食課
事業内容	学校給食におり 調理従事者の研 また、PEN 樹脂	肝修会等を	実施	します。
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
年次	食育研究及び 食育に関する 研修の実施			
年次計画				PEN樹脂 製食器の 買換え 9 校分

項目	学校事故防止の推進 担当		保健給食課	
事業内容	節に応じて発生	生しやすい 等を教職員	事故	進するため、時 防止にかかわる 布し、注意喚起
	平成 24 年度	平成 25	年度	平成 26 年度
年次計画	111133			事故を事例としたこ向けて学校へ配

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

- ・ 自主防犯意識を高めるため、誘拐防止等の防犯講話や地域安全マップづくりを行います。(生活あんしん 課/防犯教室)
- ・ 小中学生の交通安全意識を高め、交通事故軽減を図るため、歩き方教室(全ての小学校1年生を対象)や 自転車乗り方教室、スタントマンを活用した体験型交通安全教室などを実施します。(道路安全対策課/ 交通安全教室)
- ・ 応急手当の普及啓発のため、中学生を対象に保健体育の授業の中で、救急救命課職員に加え、応急手当普 及員の資格をもつ教員や保健体育の教員が協力して、普通救命講習会を実施します。(救急救命課/普通 救命講習会)
- ・ 地元で作られた米や野菜に、より愛着を持ってもらうため、「米」と「大和で採れた野菜」をテーマとする作文を募集し、表彰します。(農政課/米作文・大和で採れた野菜作文コンクール)

- ・食育指導年間計画を作成し、家庭科や社会科、総合的な学習の時間等に食育の視点の授業を行っています。
- ・ 自らの判断で自分の身が守れるように、具体的な場面を想定した避難訓練を行っています。
- ・東日本大震災を受け、本市での基本方針(震度5弱以上の地震発生時には、小・中学校では児童生徒を安全に保護し保護者に引き渡す)のもと、防災体制の整備に取り組んでいます。その中で、自らの判断で自分の身が守れるように、具体的な場面を想定した避難訓練を行っています。

基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

施策の方向1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します

(目標達成に向けた主な事務事業)

(自然定例に同うだ上で学習学术)				
項目	学校訪問による	る指導	担当	指 導 室
事業内容	学校が創意工夫して教育課程の編成を行えるよう、指導主事等が学校を訪問し、指導方法をはじめ、教育全般にわたり指導・助言を行います。			
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
	計画訪問の実施 回数 28 回			
年次計画	要請訪問の実施 回数 42 回	同左	52 回	同左 64 回
	計画訪問:学校教育全般にわたる諸問題を把握し、 専門的事項について指導助言を行います。 要請訪問:授業実践や校内研究、教育課程に関す る指導助言を行います。			

- ・ 学習指導要領の趣旨を踏まえ、学校目標でめざす児童像にむけ、全校で言語活動の充実を核に授業改善に 取り組んでいます。
- ・ 地域の「泉の森」を核に、生活科や理科や総合的な学習の時間の年間計画を作成し、自然体験学習などを 進めています。

施策の方向2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します

(目標達成に向けた主な事務事業)

(日保建成に回りた工み事物事業)				
項目	学校評議員の勢	長嘱	担当	指 導 室
事業内容	学校の運営に対し意見をいただくことを目的に、主に地域の方の中から校長の推薦があった方を学校評議員として委嘱します。			
	平成 24 年度	平成 25	年度	平成 26 年度
年为	学校評議員の 委嘱人数 160 人			
年次計画	現在委嘱してい きます。	る学校評議	員の人	数を維持してい

項目	大学との連携 担当 指導室	
事業内容	大学と児童・生徒の教育活動を支援する「教育インターンシップ」に関する協定の締結を 進め、学生ボランティアを各学校に派遣します。	
年	平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年度 協定を結んだ 大学数 5 校 同左 6 校 7 校	
年次計画	※協定を締結した大学(平成 23 年度時点) ・相模女子大学 ・清泉女子大学 ・鎌倉女子大学 ・玉川大学	

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

・ 市立図書館と学校図書館の連携を深めるため、市立図書館の職員が学校図書館司書の研修会に出向き、情報共有を推進します。(図書館/図書館運営事業)

- ・ 児童・生徒、保護者等関係者による学校評価を行い、その評価を次年度の計画に生かします。
- ・ 学校評議員会を通年的に開催し、評議員から学校経営に対する意見や考えをうかがい、教育活動に反映しています。

施策の方向3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます

(目標達成に向けた主な事務事業)

	(日际建成に回りに工る事物事業)				
項目	児童・生徒の安全対策				
事業内容	不審者情報や災害時における情報を学校が保護者に対し発信できる学校PSメールにいて、システムの維持管理をします。				
	平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年	度			
年	学校 PS メール システムの保守				
年次計画	平成 24 年度にシステムを改修し、より迅速にが提供できる体制を整えます。	情報			

項目	共同調理場及で調理場大規模の		担当	保健給食課
事業内容	学校給食施設の大規模な改修を行い、安全で 良質な学校給食を提供します。			
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
	耐震補強 詳細設計 北部調理場	耐震補強 工事 同左		
年次計画	エレヘ・-タ改修工事 文ヶ岡小 上和田中 南林間中	同左 上和E	田小	同左 つきみ野中
	受変電設備 改修工事 南部調理場	同左 中部調 ³	理場	

項目	共同調理場及び単独 調理場運営	担当	保健給食課
事業内容	安全で良質な学校給食品 給食衛生管理基準等に設けいます。 また、調理場等を対象は食中毒や異物混入の防止	基づき組 こ衛生相	合食調理業務を 検査を実施し、
	平成 24 年度 平成 25	年度	平成 26 年度
年次計画	衛生検査実施施設数 ・学校給食共同調理場 3 施設 ・単独調理校 8 施設 ・受入校 10 施設	扇年で実施	施します。

- ・ 不審者情報を保護者に発信し、児童・生徒を見 守る目を増やして、児童・生徒の安全を図って います。
- 火災、地震などの緊急時における対応について、 大和市の危機管理課職員による研修会を実施 するなどして、見直しをしています。

施策の方向4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します

(目標達成に向けた主な事務事業)

(日候連队に凹げた土は事務事業)				
項目	学校施設老朽(大規模改修	比に伴う	担当	教育総務課
事業内容	良好な教育環境に維持していくため、老朽化 した校舎を計画的に改修ができるよう、整備 計画を策定します。			
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
年次計画		実施設計 桜丘小		工事(1/2) 同左 実施設計 渋谷小
画	工事(2 力年事大和中	達		
	実施設計つきみ野中	工事(同)	〔2 カ年 左	事業)

項目	学校防音設備整備		担当	教育総務課
事業内容	航空機騒音を軽減するため、防音設備を整備 し、良好な室内環境の下での教育を実現しま す。			
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
在		実施設計 桜丘小		工事(1/2) 同左 実施設計 渋谷小
年次計画	工事(2 力年事 大和中	業)		汉谷小
				実施設計 南林間中
	実施設計つきみ野中	工事(2 同左	力年 ³	事業)

項目	学校トイレ改修		担当	教育総務課
事業内容	計画的に、明るく、衛生的で、使いやすいイレに改修していきます。			、使いやすいト
	平成 24 年度	平成 25 4	丰度	平成 26 年度
年次計画	改修工事 林間小 大和小 草柳小 南林間小	一年版 25 年度 同左 北大和小 深見小 西鶴間小 柳橋小 大和中 南林間中		同左 林間小 柳橋小 南林間小 引地台中 つきみ野中 上和田中

≪本施策にかかわる学校の取組み事例≫

・ 校舎内外の点検を定期的に実施し、安心で安 全な学校施設であるよう維持管理に努めて います。

施策の方向5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります

(目標達成に向けた主な事務事業)

(日际建以に凹げた土体争物争未)				
項目	教職員研修		11 市出	指 導 室 教育研究所
事業内容	教職経験に応じた研修や、校長・教頭などの 職責に応じた研修に加え、専門性を高める研 修(希望研修及び各校1名以上選出研修)を 行います。			
	平成 24 年度	平成 25	年度	平成 26 年度
	各種研修会 の実施			
年次計画	「めざすべき教職員像の3要素」 〇人格的資質・情熱 教職に対する資質・情熱を喚起します。 〇課題解決力 子どもや社会の変化による新たな課題へ対応できる力を養います。 〇授業力 分かりやすい授業実践力を身につけます。			

項目	教育研究支援	担当	指 導 室
事業内容	各学校の校内研究組織 託します。 また、市内教職員の横 補助金等を交付します	断的な研	
	平成 24 年度 平成 2	25 年度	平成 26 年度
车	研究委託 ・教育課題研究 推進委託 3 校 ・その他 25 校		
年次計画	市小・中学校教 育研究会等への 助成 39 部会		
	小・中学校教育研究会は たり、各年度設定したう		•
	の成果を機関誌にまとめ		

項目	学校訪問による指導 (再掲)		担当	指導室
				指導方法をはじ か言を行います。
事業内容				
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
	計画訪問の実施			
年次	回数 28 回	/		
年次計画				
	要請訪問の実施	同左		同左
	回数 42 回	5	2 回	64回

項目	教科における位 活動の推進	本験的	担当	指 導 室 教育研究所	
事業内容	新学習指導要領の趣旨に沿った体験的な学習、問題解決的な学習の充実に向けて、教職 員対象の研修会や訪問指導を行います。			_	
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度	Ę
	/	\			
年次計画	体験的な学習を ふまえた授業力 向上研修の開催 回数 1回				
計画					_
	要請訪問時に 指導・助言				
					_

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

・保育所や社会教育施設などでは、教職員の社会体験研修の場として、受け入れに協力しています。(保育 家庭課(保育所)、文化振興課 他)

- ・ 校内研修、校内研究のほか、自主的に勉強会を開催し、教職員の資質向上に努めています。
- ・ 校内研究を中心に、児童のかかわり合いを大切にした授業を実践するとともに、ICT機器の積極的活用 に努めています。
- ・ 教職員の人権感覚を高めるため、研修会等に参加するとともに、校内でその成果の共有に努めています。

施策の方向6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます

(目標達成に向けた主な事務事業)

(01	(日际连戍に凹げた土仏争効争未)					
項目	教育用コンピュータ 整備		担当	教育研究所		
事業内容	小· 中学校のコンピュータ教室等に設置する 教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ を整備します。					
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度		
年次計画	小学校職員系 校内 L A N サーバ機器等 の更新	小学校耶 系校内 l コンピュータ の更新	_ A N	コンピュータ 教室機器 の更新		

項目	教職員健康診園	ff .	担当	保健給食課
事業内容	疾病の早期発見め、教職員の個		-	の保持を図るた します。
	平成 24 年度	平成 25	年度	平成 26 年度
年次	教職員健康 診断の実施 3日			
年次計画	教職員対象メンタルヘルス講座			
	の開催 1回			

項目	非常勤講師派遣		担当	学校教育課
事業内容	病気や介護、研修などにより教職員が短期間 (4日から2週間未満※)不在となり、学校 の授業に支障をきたす場合、速やかに非常勤 講師を任用します。 ※県費非常勤講師の派遣対象外			
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
年次計画	派遣日数 11 日程度			

- ・ 文書作成や成績処理において、校務の情報化を図っています。
- ・ 授業等でのサポートとして、学校支援ボランティ アや学生ボランティアを募っています。

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

施策の方向1 学校と保護者との連携を深めます

(目標達成に向けた主な事務事業)

<u> </u>	(日际建物に同りた工法学の学术)			
項目	教育委員会広幸	设誌発行	担当	教育研究所
	学校教育につい	/ て 抽 拭 仝	はで	理解をいただく
	ため、教育委員	員会の施策	や学	校の特色ある教
事業内容	育活動について	て、市民に	広く	周知します。
内	また、保護者と	連携した	学校教	放育推進のため、
谷				力を働きかけま
		山飞石到、	· Uノ Iガガ	刀を倒されてよ
	す。			
	平成 24 年度	平成 25	年度	平成 26 年度
	ビジュアル版			
	「大和の教育」			
	の発行 1回			\rangle
年	(75.500 部)			
次	(75,500 p)			
年次計画	「まなびやまと」			
凹				
	の発行 2回			
	(各 75,500 部)			
	│────────────────────────────────────			
	介するなど、連打	隽推進に向	けて支	え援します。

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

・ 学校・家庭・地域の連携促進を図るため、大和市PTA連絡協議会の活動費の一部を助成します。(生涯 学習センター/PTA連絡協議会支援事業)

- PTA活動を中心に、読み聞かせボランティアや学校行事のアシスタントなど、保護者が教育活動に参画 いただく場面を設けます。
- ・保護者との関係を密にし、信頼関係の構築に努めています。
- ・ 学校ホームページ、学校・学年・学級だより、給食だより等の媒体を活用し、学校内の情報をきめ細かく 発信しています。

施策の方向2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します

(目標達成に向けた主な事務事業)

(11	宗廷队に凹げた土仏争務争来 <i>)</i>				
項目	青少年相談		担当	青少年相談室	
事業内容	問題解決を支援	受します。 とが必要な	家庭	談を受け、その には、スクール 派遣します。	
	平成 24 年度	平成 25	年度	平成 26 年度	
年次計画		るため、特	する	同左 4日/週 とともに、子ど 談員を定期的に	

項目	親子料理教室		担当	保健給食課
事業内容	•	を深めるこ	とが	を高めるととも できるよう、親
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
年次計画	親子料理 教室の開催 回数 2回			

項目	保護者対象講座	<u>E</u>	担当	青少年相談室 教育研究所
事業内容	保護者に限らず、教職員や青少年関係団体関係者をはじめとする、多くの市民の方々の子ども理解を深めるため、抱える課題に応える講演会を定期的に開催します。			市民の方々の子る課題に応える
	平成 24 年度	平成 25:	年度	平成 26 年度
		\		
	青少年相談室			
年次計画	非行防止講演会 1回			
画	不登校を考える 保護者会 3回			
	教育研究所教育講演会 1回			

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

- ・ 親子のふれあいや郷土愛を深め、青少年の健全育成を図るため、親子で大和の史跡・名所をウォークラリーとしてまわります。(こども・青少年課/親子ナイトウォークラリー)
- ・ 学習センターにおいて、親子関係を深めながら何かをやり遂げる機会の提供として、親子が協力して行う料理教室やものづくり講座を開催します。 (生涯学習センター/学習センター事業等)

- ・子育てに関し、懇談会の中で話し合いの場を設けたり、講演会を開催したりします。
- ・ 学校教育相談員やスクールカウンセラーと連携 し、保護者の相談に応じます。

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

施策の方向1 地域社会と協働した学校教育を推進します

(目標達成に向けた主な事務事業)

項目	教育委員会広幸 (再掲)		担当	教育研究所
事業内容	学校教育について地域全体で理解をいただくため、教育委員会の施策や学校の特色ある教育活動について、市民に広く周知します。また、地域と連携した学校教育推進のため、学習会への参加や活動への協力を働きかけます。			
	平成 24 年度	平成 25	年度	平成 26 年度
年次計画	ビジュアル版 「大和の教育」 の発行 1回 (75,500部)			
画				
	「まなびやまと」 の発行 2回 (各 75,500 部)			

項目	教育委員会表彰		担当	教育総務課
事業内容		動いただい	た功	野において、長 労や、他の模範 します。
	平成 24 年度	平成 25 年	丰度	平成 26 年度
年次計画	被表彰者数 40 人			

- ・ 地域の方や保護者ボランティアの方々を招き、ゲストティーチャーとして授業を行っていただいたり、地域学習を行ったりしています。
- PTAや地域の協力のもと、登下校時等の安全パトロールを行っています。

施策の方向2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます

(目標達成に向けた主な事務事業)

項目	夏休み子どもま	まなびや	担当	指 導 室	
事業内容	学校や家庭とは 合いながら、当 感できるよう、 方にも協力いた 自由研究などへ	E体的に学 夏休みに こだき、児	ぶこと 地域/ 童の夏	この楽しさを実 ドランティアの 夏休みの宿題や	E
	平成 24 年度	平成 25 :	年度	平成 26 年度	
年次計画	まなびやの開催コミセン				\setminus
画	20 施設×2	/		<u>/</u>	/

項目	青少年相談・行	街頭補導	担当	青少年相談室
事業内容	悩む青少年や保護者等から相談を受け、その問題解決を支援します。 また、非行防止、社会環境浄化のため、ゲームセンターや公園等を巡回し、問題行動がある青少年に対しては補導を行います。			
	平成 24 年度	平成 25 年	丰度	平成 26 年度
年次計画	街頭補導の 実施回数 10回/週			

≪施策を支える市長部局の事務事業等≫

- ・ 放課後の安全・安心な子どもの活動拠点(居場所)を設けるため、地域の方々の参画を得ながら、様々な体験・交流活動の取り組みを推進する放課後子ども教室を運営します。(こども・青少年課/放課後子ども教室の運営)
- ・ 火災予防について、命や暮らしを守ることの大切さを学ぶとともに、規律や防災知識を身につけ、家庭や 地域の防火防犯意識の向上を図るため、少年消防団を支援します。(予防課/大和市少年消防団支援事業)
- ・ 地域で青少年健全育成を進める団体(青少年指導員連絡協議会、子ども会連絡協議会、母親クラブ連絡協議会)を支援するとともに、指導者を養成していきます。(こども・青少年課/青少年指導者育成支援)
- ・保育園、NPO法人、関係団体、行政など子育て支援にかかわる各機関が情報を共有し、連携し施策を推進できるよう、ネットワーク会議を開催します。(こども総務課/子育て支援ネットワーク会議)
- ・読書活動を支援するため、読み聞かせボランティア養成講座を開催します。(図書館/読み聞かせボランティア養成講座)

- ・ 地域の祭りに参加するなど、地域の方々と交流を図っています。
- ・ 地域、社会教育団体、PTAに呼びかけて「校庭側溝清掃」を共同で実施しています。
- ・家庭・地域活性化会議等、地域の組織と連携して環境美化活動を行っています。
- ・ 登下校時の安全パトロール「おかえりなさい運動」を実施しています。
- ・親父たちの会主催の、デイキャンプやフェスタに取り組んでいます。

資 料

(教育部所管)実施事務事業一覧

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

施策の方向1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

事 業 名	所 管	事業目的
小中学校学用品等就学援助事業	学校教育課	経済的理由により、小中学校への就学が困難な家庭の負担を軽減します。
奨学金給付事業	学校教育課	高等学校等への就学希望があるにもかかわらず、経済的理由により学資の 支弁が困難な家庭の負担を軽減し、生徒の高校進学を支援します。
朝鮮人学校保護者会支援事業	学校教育課	市内在住の朝鮮人学校に在学している児童·生徒の保護者の経済的負担を 軽減します。
小中学校児童·生徒活動等運営 事業	学校教育課	児童・家庭・地域と学校間の連携を深め、学校運営の円滑化を図ります。
小中学校特別支援教育就学奨励 事業	学校教育課	特別支援学級への就学や「ことばの教室」へ通級する家庭に援助を行うと ともに、特別支援教育の普及奨励を図ります。
外国人児童生徒教育推進事業	指 導 室	外国人児童・生徒が、日本語で教育内容を理解できるようにします。
小中学校院内学級運営事業	指 導 室	大和市立病院に入院している児童·生徒の教育機会を保障します。
いじめ・不登校等対策事業	指 導 室	学校におけるいじめの撲滅を目指すとともに、不登校児童·生徒の減少を 図ります。
特別支援教育研究事業	指 導 室	市内全小中学校の特別支援学級が合同で行事を実施し、また担当教員によ る共同研究を行うことにより、特別支援教育の充実を図ります。
特別支援教育推進事業	指 導 室	教育上配慮を要する児童・生徒に対し、教育的ニーズに応じたきめ細やか な支援を行うことにより、特別支援教育の充実を図ります。
就学相談事業	指 導 室	教育上配慮を要する児童・生徒が、適切な就学ができるようにします。
ことばの教室運営事業	指 導 室	ことばと聞こえの障がいを改善するため、その児童の症状に合わせた指導 を行い、会話などを通じたコミュニケーション能力の向上を図ります。
特別支援教育教材備品等整備 事業	指 導 室	特別支援教育の充実を図るため、個々のニーズに合った教材等を整備しま す。
不登校児童生徒援助事業	青少年相談室	不登校児童·生徒の学校への再登校を目指します。
青少年相談・街頭補導事業	青少年相談室	電話・来室で相談を受け、児童・生徒が抱えているさまざまな問題の解決 を図ります。
学校教育相談員活用事業	青少年相談室	児童・生徒が不安や悩みを気軽に話せ、心にゆとりを持てるような環境を つくります。

施策の方向2 "確かな学力"を身につける教育を進めます

事 業 名	所 管	事業目的
児童・生徒教育活動事業 (学校配当)	教育総務課	適正な学校行事運営を図るため、教育活動に必要な教材及び消耗品の充 実・整備・修繕を行います。
少人数指導等非常勤講師配置 事業	学校教育課	小学校では低学年の、中学校では第1学年時の児童数・生徒数が1学級あたり35人以上の学校で、きめ細やかな学習指導を行えるようにします。
非常勤講師派遣事業	学校教育課	教職員の病欠や研修会への出席に対応するため、代替職員を派遣します。
指導図書等整備事業	指 導 室	教員が教科指導を効果的に行うことができる環境を整えます。
小中学校教科書等整備事業	指 導 室	児童・生徒に準教科書を配付し、教科学習を効果的に実施します。
小中学校教材等整備事業	指 導 室	学校での教育活動に必要な教材を整備します。
学校訪問による学校別指導推進 事業	指 導 室	指導主事の学校訪問により、教育全般にわたる教職員の指導力向上を図り ます。
英語教育推進事業	指 導 室	外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、言語、 文化について理解を深め、国際コミュニケーション能力の向上を図ります。
理科センター運営事業	教育研究所	理科·環境教育について実験を伴う授業等様々な授業の実践を支援します。
教育ネットワーク運用管理事業	教育研究所	教育ネットワークを正常に維持管理することにより、学校間、校内の情報 の共有及び情報通信を活用した授業の円滑化を図ります。
教育用コンピュータ整備事業	教育研究所	情報教育を推進するため、コンピュータ機器等の整備と保守を行います。
情報教育推進事業	教育研究所	ICT機器を活用した授業での指導力向上を図るとともに、教職員が様々な情報教育課題に対応できるようにします。
理科·環境教育に関する調査研究·研修事業	教育研究所	理科教育·環境教育に関する教職員の指導力向上を図ります。また、児童・ 生徒の科学技術への関心を高めます

施策の方向3 体験活動を充実します

地域の方向の一种域が自動と元の		W U		
事業名所		事業目的		
小中学校行事等支援事業	指 導 室	児童・生徒が心豊かな人間性を育めるよう、自然にふれたり、優れた芸術 に接したりする機会を提供します。		
小中学校地域教育力活用推進 事業	指 導 室	地域の人材を積極的に活用し、家庭·地域と一体となって開かれた学校運営を図ることにより、学校教育の充実を図ります。		
中学校移動水泳授業実施事業	指 導 室	学校にプールが設置されていない中学校の生徒が、水泳授業を受けられるよう、 引地台温水プールで移動水泳授業を実施します		
修学旅行等への看護師派遣事業	指 導 室	宿泊を伴う学校行事等に看護師を派遣することで、参加児童・生徒の体調 不良等に備えるとともに、養護教諭を学校内の業務に専念させます		
中学校部活動等支援事業	指 導 室	中学校の部活動の振興を図るとともに、生徒の実技を指導し、体力向上や 社会性などを養います。		
教育に関する調査研究: 研修事業	教育研究所	教職員の資質・指導力向上を図り、様々な教育課題の解決への糸口を探り 出すことにより、教職員が教育課題に対応できるように図ります。		

施策の方向4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります

事業名	所 管	事業目的
人権教育推進事業	指 導 室 教育研究所	学校教育における人権・同和教育を推進し、教職員の人権意識を高めます。
学校訪問による学校別指導推進 事業 [再掲*]	指 導 室	指導主事の学校訪問により、教育全般にわたる教職員の指導力向上を図り ます。

施策の方向5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります

事業名	所 管	事業目的
小中学校図書館教育推進事業	指 導 室	学校図書館の機能を十分発揮できるよう、図書環境の充実を図ります。
中学校図書館施設整備事業	指 導 室	感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにする子どもたちの自主的な読 書活動を推進するための図書室の施設整備を進めます。
小中学校行事等支援事業[再掲]	指 導 室	児童・生徒が心豊かな人間性を育めるよう、自然にふれたり、優れた芸術 に接したりする機会を提供します。

施策の方向6 健康・安全教育を充実します

事業名	所 管	事業目的
就学時健康診断事業	保健給食課	新入学児童の健康状態の把握と疾病の早期発見を図ります。また、健康面 などで配慮の必要な児童の適切な就学を図ります。
小中学校医療費等就学援助事業	保健給食課	経済的理由により、小中学校への就学が困難な家庭に対し、必要な医療費 等を援助します。
児童·生徒健康管理事業	保健給食課	疾病の早期発見と予防、健康の保持増進を図ります。
学校災害補償事業	保健給食課	災害給付金の支給により、医療費の負担軽減等を図ります。
健康管理団体支援事業	保健給食課	児童・生徒の健康管理を増進するための調査研究活動を推進します。
学校教育食育推進事業	保健給食課	健全で豊かな人間性を育むため、学校給食における食育を推進します。

^{*}再掲事業の事業目的については、各施策の内容に沿った内容を記載しています。

基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

施策の方向 1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します

事業名	所 管	事業目的	
児童·生徒教育活動事業	教育総務課	適正な学校行事運営を図るため、教育活動に必要な教材及び消耗品の充	
(学校配当) [再掲]	教 月 秘 伤 床	実・整備・修繕を行います。	
校長·教頭連絡協議会支援事業	学校教育課	学校の管理運営についての研究、研修を行い、学校教育の充実向上を図り ます。	
学校訪問による学校別指導推進 事業 [再掲]	指 導 室	指導主事の学校訪問により、教育全般にわたる教職員の指導力向上を図り ます。	

施策の方向2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します

事業名	所 管	事業目的
学校訪問による学校別指導推進 事業[再掲]	指 導 室	指導主事の学校訪問により、教育全般にわたる教職員の指導力向上を図り ます。
小中学校地域教育力活用推進事業 [再揭]	指 導 室	地域の人材を積極的に活用し、家庭· 地域と一体となって開かれた学校運営を図ることにより、学校教育の充実を図ります。

施策の方向3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます

事 業 名	所 管	事業目的
通学路指定·補修要望事務	学校教育課	児童・生徒の登下校の安全を確保します。
学校薬剤師検査室運営事業	保健給食課	小中学校の環境衛生検査を定期的に実施します。
小中学校環境検査事務	保健給食課	飲料水、プール水の水質検査及び教室の空気環境の維持を図ります。
給食用消耗品購入事務(学校配当)	保健給食課	安全で良質な学校給食を提供するために、各学校で使用する衛生管理及び 給食業務に必要な物品の購入費用を各学校に配当し、物品を購入します。
3 学校給食共同調理場運営事業	保健給食課	学校給食共同調理場における給食調理業務が円滑に実施されるように、適切な運営管理の推進を図ります。
単独調理校運営事業	保健給食課	単独調理校8校における給食調理業務が円滑に実施されるように、適切な 運営管理の推進を図ります。
受入校運営事業	保健給食課	受入校が給食業務を円滑に実施できるように、適切な運営管理の推進を図 ります。
給食共同調理場施設維持管理 事務	保健給食課	学校給食の衛生面、安全性を確保するため、施設を適切に維持管理します。
単独調理校施設維持管理事務	保健給食課	学校給食の衛生面、安全性を確保するため、施設を適切に維持管理します。
受入校施設維持管理事務	保健給食課	学校給食の衛生面、安全性を確保するため、施設を適切に維持管理します。
学校給食施設大規模改修事業	保健給食課	学校給食施設の大規模な改修を行い、安全で良質な学校給食を提供しま す。
学校給食設備整備事業	保健給食課	施設の適正な機能水準を維持し、安全で良質な学校給食を提供します。
給食費管理事務	保健給食課	給食費の適正な納付と管理を図るため、各小中学校に1名ずつ学校給食事 務補助員を配置します。
学校給食管理運営事業	保健給食課	安全で良質な学校給食を提供するために、衛生管理の徹底を図ります。
児童生徒安全対策事業	指 導 室	犯罪、不審者等の情報や、行政情報等を迅速に保護者へお知らせします。

施策の方向4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します

事業名	所 管	事業目的
児童·生徒教育活動事業(学校配 当) [再掲]	教育総務課	教育環境を整備するため、小中学校の行事に必要な物品や教材用消耗品整 備のための経費を学校の規模、要望に応じて配当します。
小中学校庁務作業業務	教育総務課	学校施設の管理に必要な軽作業を行うことにより、学校施設の維持、美観 保持等を図ります。
営繕作業所管理運営事務	教育総務課	学校で発生する軽微な補修等に早急に対応し、適切な教育環境を維持し、 安全性を確保します。
小中学校施設維持管理事業	教育総務課	良好な学習環境を確保するため、学校施設を適切に維持管理します。
小中学校学校備品整備事業	教育総務課	学校の学校施設管理備品の整備を計画的に行います。
小中学校管理事務(学校配当)	教育総務課	学校運営上必要な消耗品費などを小学校に配当し、各学校で物品を購入し ます。
小中学校大規模改修事業	教育総務課	児童・生徒及び学校関係者の学校生活における教育環境の向上を図りま す。
小中学校防音設備整備事業	教育総務課	厚木基地の航空機騒音を軽減し、教育環境の向上を図ります。
小中学校管理用物品購入配布 事務	学校教育課	小中学校の学習の充実と適正な学校運営を図ります。
通学区域設定・変更事務	学校教育課	小中学校の通学区域を適切に設定変更することで、学校間の規模的格差を 是正し、教育条件の均等化を図ります。

施策の方向5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります

施来の方向 5				
事業名	所 管	事業目的		
教職員人事事務	学校教育課	小中学校の適正な人事運営を確保することにより、各教職員が教育職としての目的を達成できる環境を整えます。		
教育研究支援事業	指 導 室	教職員の指導力を高め、教育水準の向上を図ります。		
学校訪問による学校別指導推進 事業 [再掲]	指 導 室	指導主事の学校訪問により、教育全般にわたる教職員の指導力向上を図り ます。		
特別支援教育研究事業 [再掲]	指 導 室	市内全小中学校の特別支援学級が合同で行事を実施し、また担当教員による共同研究を行うことにより、特別支援教育の充実を図ります。		
教職員研修実施事業	指 導 室	教職員を対象とする研修会を開催し、各種の教育課題に関し必要な専門知 識や技能の習得を促進します。		
教育に関する調査研究·研修事業 [再掲]	教育研究所	教職員の資質・指導力向上を図り、様々な教育課題の解決への糸口を探り 出すことにより、教職員が教育課題に対応できるように図ります。		

施策の方向6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます

事業名	所 管	事業目的
非常勤講師派遣事業 [再掲]	学校教育課	教職員の病欠や研修会への出席に対応するため、代替職員を派遣します。
教職員互助会支援事業	学校教育課	教職員の福利厚生を充実し、福祉の増進を図ります。
教職員健康診断事務	保健給食課	教職員の疾病の早期発見と予防、健康の保持を図ります。
学校医等公務災害補償事務	保健給食課	学校医等の公務上の災害に対する補償をします。
学校事務研究協議会支援事業	指 導 室	教職員とともに学校教育を担う学校事務職員の自主研究活動を支援し、効 率的な学校運営を推進します。
特別支援教育推進事業[再掲]	指 導 室	教育上配慮を要する児童・生徒に対し、教育的ニーズに応じたきめ細やか な支援を行うことにより、特別支援教育の充実を図ります。
小中学校地域教育力活用推進 事業 [再掲]	指 導 室	地域の人材を積極的に活用し、家庭 [・] 地域と一体となって開かれた学校運営を図ることにより、学校教育の充実を図ります。
教育用コンピュータ整備事業 [再掲]	教育研究所	情報教育を推進するため、コンピュータ機器等の整備と保守を行います。

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

施策の方向1 学校と保護者との連携を深めます

事業名	所 管	事業目的
小中学校地域教育力活用推進	指導室	地域の人材を積極的に活用し、家庭·地域と一体となって開かれた学校運
事業 [再掲]	指導室	営を図ることにより、学校教育の充実を図ります。
学校訪問による学校別指導推進	北	指導主事の学校訪問により、教育全般にわたる教職員の指導力向上を図り
事業 [再掲]	指導室	ます。
教育に関する調査研究: 研修事業	业 去现办证	特色ある教育活動を広報誌等で市民に周知するとともに、保護者と連携し
[再掲]	教育研究所	た学校教育推進に向けた学習会への参加や活動への協力を働きかけます。

施策の方向2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します

事 業 名	所 管	事業目的
学校教育食育推進事業 [再掲]	保健給食課	家庭における食に対する意識を高めるとともに、親子の絆を深めることが できるよう、親子料理教室を開催します。
青少年相談・街頭補導事業	青少年相談室	青少年の非行防止と問題の解決に向けて支援します。
学校教育相談員活用事業 [再掲]	青少年相談室	児童・生徒が不安や悩みを気軽に話せ、心にゆとりを持てるような環境を つくります。

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

施策の方向 1 地域社会と協働した学校教育を推進します

事 業 名	所 管	事業目的
大和市学校教育基本計画進行 管理事業	教育研究所 教育総務課	学校教育基本計画で示した実施計画に基づき、具体的施策の進行状況を把握し、基本目標及び実施計画の見直しを行います。
中学校部活動等支援事業 [再掲]	指導室	中学校の部活動の振興を図るとともに、生徒の実技を指導し、体力向上や社会性などを養います。
小中学校地域教育力活用推進 事業 [再掲]	指 導 室	地域の人材を積極的に活用し、家庭· 地域と一体となって開かれた学校運営を図ることにより、学校教育の充実を図ります。

施策の方向2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます

一心水の万円と 地域主体でする	- 021811	(台域境) くりと進めより
事業名	所 管	事業目的
教育委員会運営事務	教育総務課	教育委員会会議を開催し、教育行政に関わる重要な方針等を審議します。
教育委員会褒章事業	教育総務課	学校教育や社会教育などの分野において、長年にわたり活動いただいた功 労や、他の模範となった功績をたたえ、表彰します。
大和の教育刊行事業	教育総務課	前年度の活動成果や指針を集約して、統計及び研究検討の資料とします。
小中学校地域教育力活用推進 事業 [再掲]	指 導 室	地域の人材を積極的に活用し、家庭 [・] 地域と一体となって開かれた学校運営を図ることにより、学校教育の充実を図ります。
教育に関する調査研究· 研修事業 [再掲]	教育研究所	特色ある教育活動を広報誌等で市民に周知するとともに、地域と連携した 学校教育推進に向けた学習会への参加や活動への協力を働きかけます。
青少年相談員連絡協議会支援 事業	青少年相談室	青少年の非行防止活動を推進するため、青少年相談員連絡協議会の運営を 支援します。
青少年相談・街頭補導事業 [再掲]	青少年相談室	青少年の非行防止と問題の解決に向けて支援します。

○ 計画策定にあたり、ご協力をいただいた学識者等

市	Ш	博		(帝京大学教職大学院研究科長)
髙	橋	輝	久	(大和市自治会連絡協議会長)
佐	藤	睦	浦	(大和市社会教育委員)
小	嶋	邦	彦	(大和市РТА連絡協議会長)
相	原	叔	子	(大和市公立保育園長会長)
鈴	木	京	子	(大和市公立小学校長会長)
岩	下	正	文	(大和市公立中学校長会長)
横	井	俊	郎	(大和市立柳橋小学校総括教諭)
荻	野	満		(大和市立下福田中学校総括教諭)

○大和市学校教育基本計画策定会議構成員

(1) 策定会議委員

滝	澤	正	(教育長)
田	中	博	(教育部長)
堀	内	一雄	(教育部参事兼教育総務課長)
大	澤	一郎	(教育部学校教育課長)
	井	博	(教育部保健給食課長)
西	Щ	誠一郎	(教育部指導室長)
岩	堀	進 吾	

(2)調査研究部会委員

飛	田	幸	人	(教育総務課政策調整担当係長)
須	貝	好	男	(学校教育課学務担当係長)
		-		(保健給食課保健給食担当係長)
 			子	(指導室主任指導主事兼指導担当係長)
 鍛	代	俊	夫	(青少年相談室主幹兼青少年相談担当係長)

○ 事務局職員

中	田	朝	夫	(教育部教育研究所長)
<u> </u>	見	明	子	(教育研究所主任指導主事兼教育研究担当係長)
 坂	本	勝	敏	(教育総務課政策調整担当主査)

大和市学校教育基本計画

未来へのまなざし

平成24年度~平成30年度

発行年月 平成24年3月

発 行 大和市教育委員会

編 集 教育部教育研究所·教育総務課

大和市下鶴間1-1-1